

### 3 寡婦世帯の調査結果

#### 1 寡婦世帯になった原因等

##### (1) 原因

寡婦世帯になった原因は、「離婚」によるものが89.5%と最も多く、次いで「病死」が5.5%となっている。

前回調査と比較すると「離婚」が33.0ポイント増加し、「病死、事故死」による死別が30.8ポイント減少している。

図1

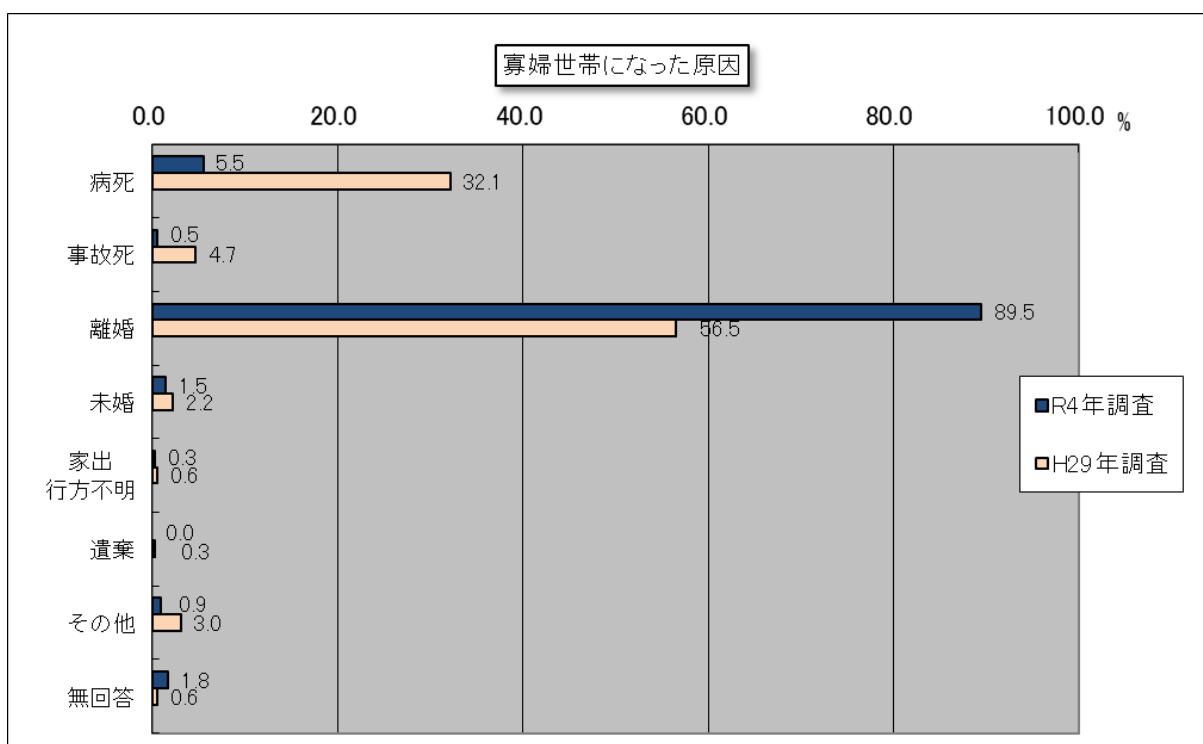


表1 寡婦世帯になった原因

(単位：世帯、%)

区分	合計	病死	事故死	離婚	未婚	家出行方不明	遺棄	その他	無回答
標本数	742	41	4	664	11	2	0	7	13
構成比	100.0	5.5	0.5	89.5	1.5	0.3	0.0	0.9	1.8
29年調査	361	32.1	4.7	56.5	2.2	0.6	0.3	3.0	0.6

## (2) 経過年数

寡婦世帯になってからの経過年数は、前回調査と同様に「15年以上」が57.1%と最も多く、次いで「10～15年未満」が18.7%、「5～10年未満」が11.6%と続いている。

図 2

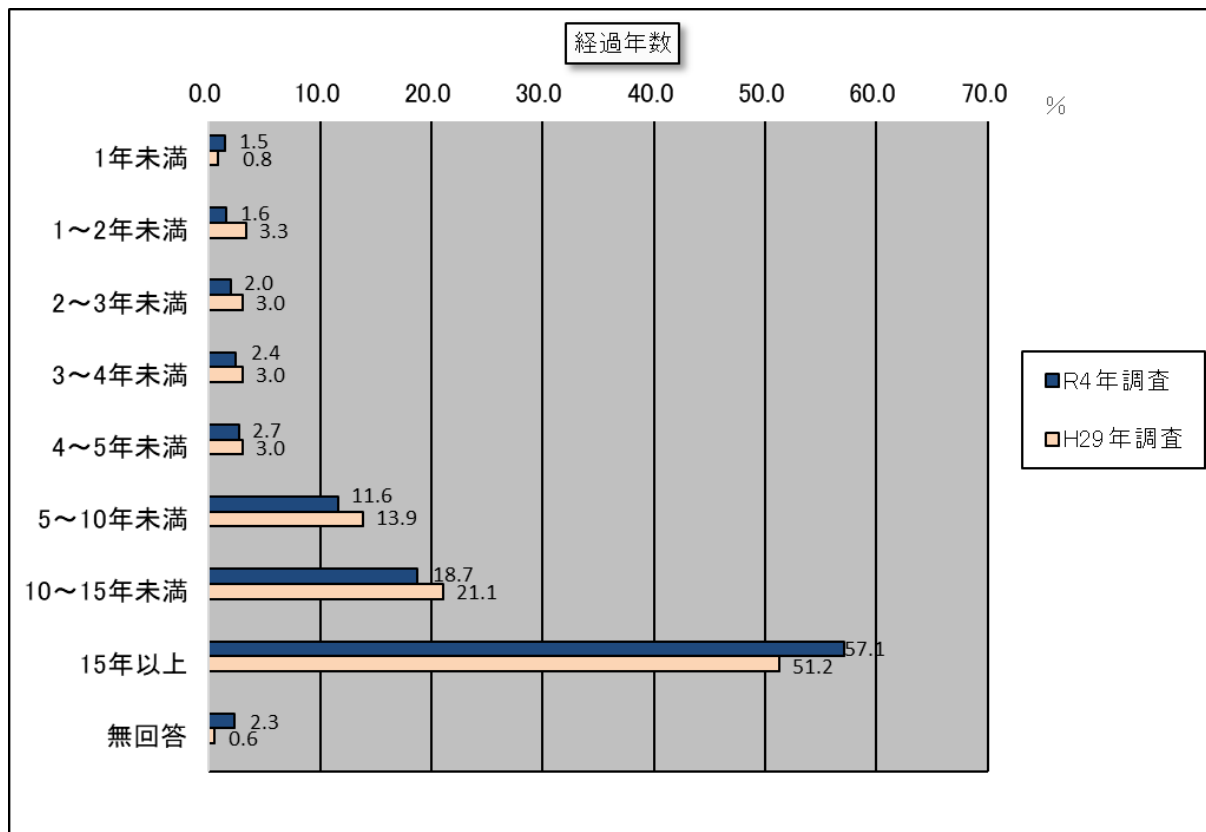


表 2 (2) 経過年数

(単位: 世帯、%)

区 分	合計	1年未満	1～2年未満	2～3年未満	3～4年未満	4～5年未満	5～10年未満	10～15年未満	15年以上	無回答
標本数	742	11	12	15	18	20	86	139	424	17
構成比 (%)	100.0	1.5	1.6	2.0	2.4	2.7	11.6	18.7	57.1	2.3
29年調査	361	0.8	3.3	3.0	3.0	3.0	13.9	21.1	51.2	0.6

### (3) 寡婦の年齢

寡婦の年齢は、「50～54歳」が36.4%と最も多く、次いで「55～59歳」が25.3%、「45～49歳」が21.3%となっている。

図 3

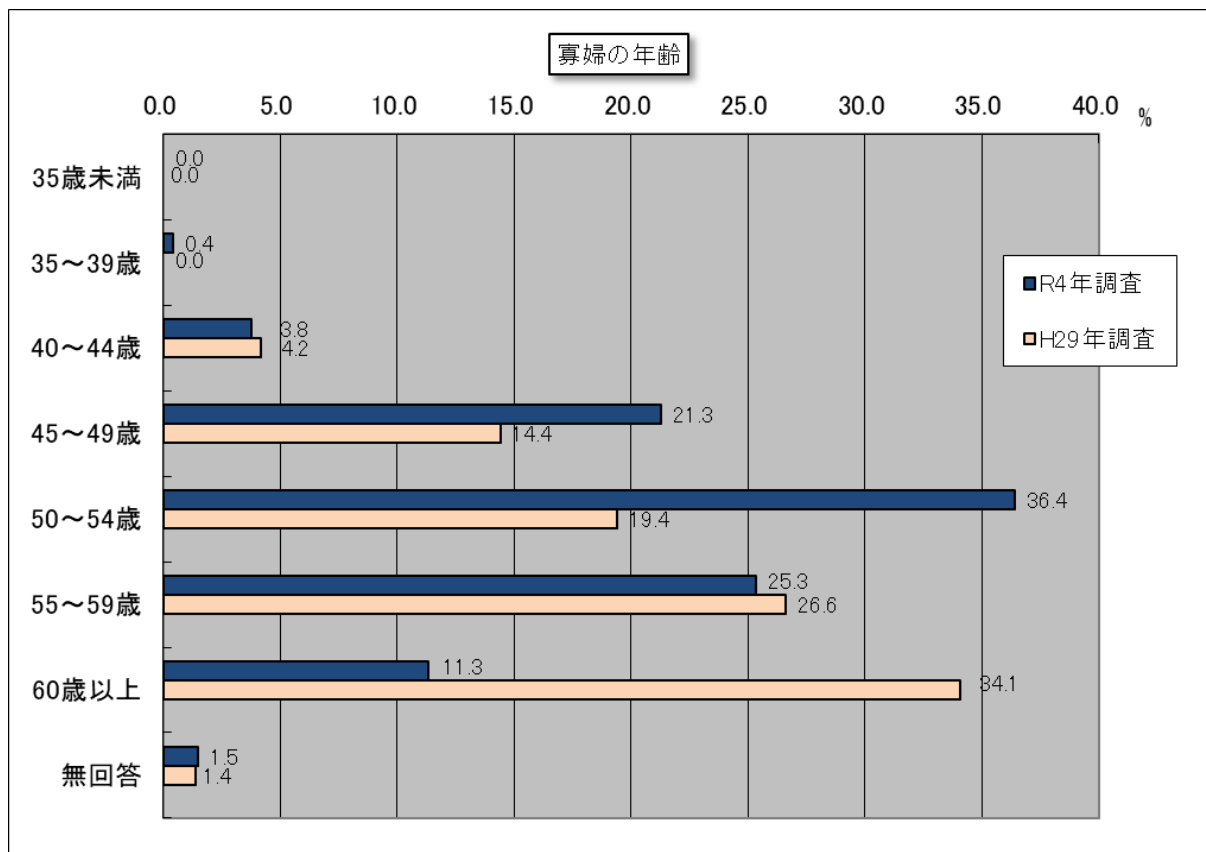


表 3 寡婦の年齢

(単位：世帯、%)

区分	標本数	35歳未満	35～39歳	40～44歳	45～49歳
標本数	742	0	3	28	158
構成比 (%)	100.0	0.0	0.4	3.8	21.3
29年調査	361	0.0	0.0	4.2	14.4

	50～54歳	55～59歳	60～64歳	無回答
	270	188	84	11
	36.4	25.3	11.3	1.5
	19.4	26.6	34.1	1.4

## 2 家族構成

### (1) 同居家族の状況

子ども以外の同居家族は、「母（義母）」が21.7%と最も多く、次いで「父（義父）」が10.9%となっている。

一方、同居家族が「いない」世帯は23.6%と全体の約4分の1を占めている。

図4

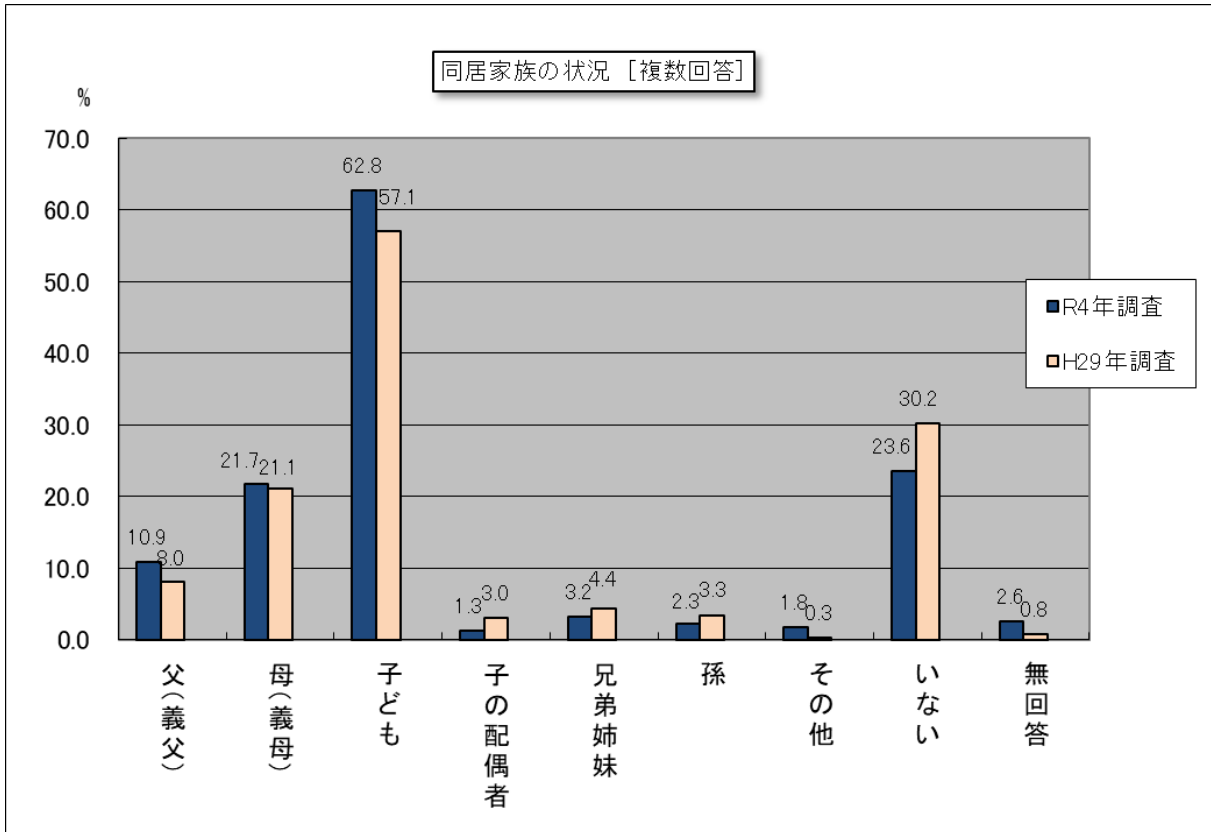


表4 同居家族の状況 [複数回答]

(単位：世帯、%)

区分	合計	父(義父)	母(義母)	子ども	子の配偶者
標本数	742	81	161	466	10
構成比(%)		10.9	21.7	62.8	1.3
29年調査	361	8.0	21.1	57.1	3.0

兄弟姉妹	孫	その他	いない	無回答
24	17	13	175	19
3.2	2.3	1.8	23.6	2.6
4.4	3.3	0.3	30.2	0.8

## (2) 世帯の同居家族数

世帯の同居家族数は、自分を含め「2人」が36.9%と最も多く、次いで「1人」暮らしが23.7%、「3人」が21.4%となっており、前回調査とほぼ同じ傾向となっている。

図5

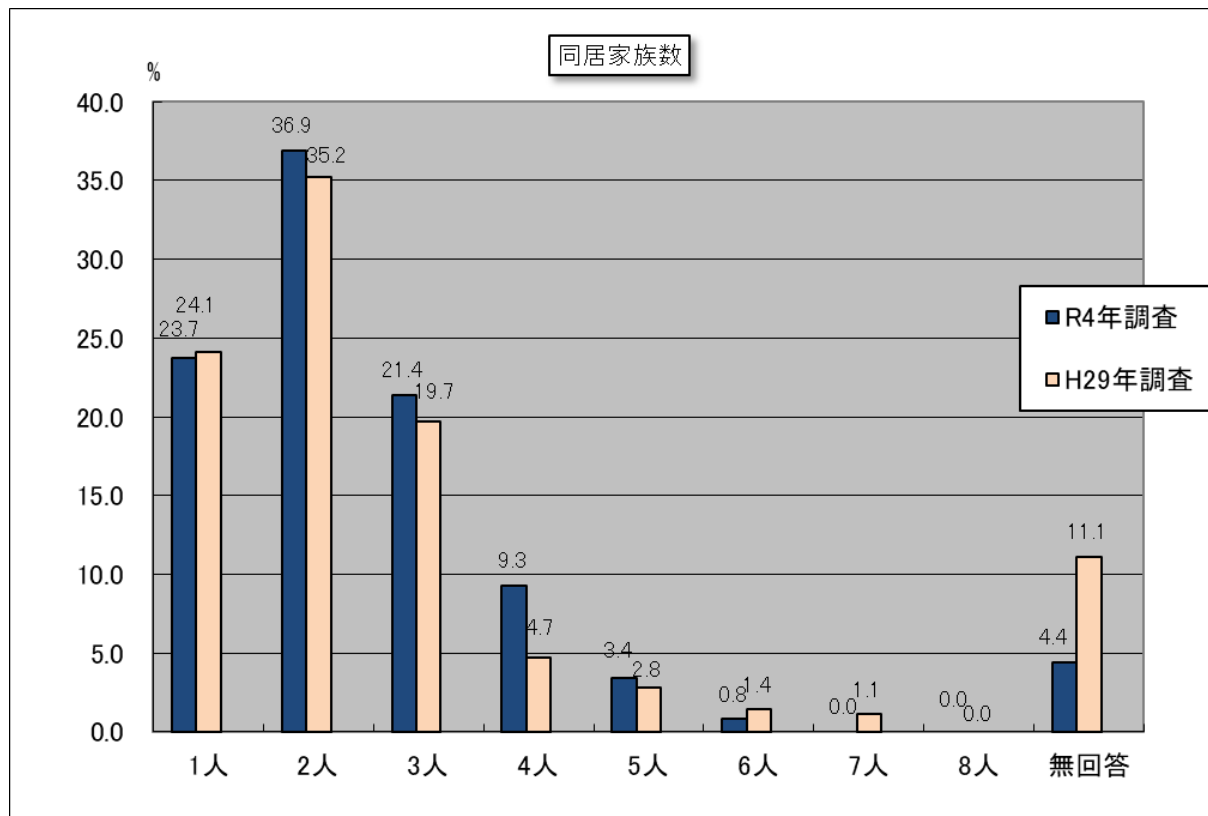


表5 世帯の同居家族数

(単位：世帯、%)

区分	合計	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	無回答
標本数	742	176	274	159	69	25	6	0	0	33
構成比(%)	100.0	23.7	36.9	21.4	9.3	3.4	0.8	0.0	0.0	4.4
29年調査	361	24.1	35.2	19.7	4.7	2.8	1.4	1.1	0.0	11.1

### 3 仕事の状況

#### (1) 寡婦世帯になった当時の就労状況

寡婦世帯になった当時「仕事を持っていなかった」は18.1%となっている。

また、就労形態は「パートタイマー、アルバイト職員」が38.3%と最も多く、次いで「正規社員・正規職員」29.2%、「派遣社員・契約社員」が6.3%と続いている。

前回調査と比較すると、「正規社員・正規職員」と「パートタイマー、アルバイト職員」の割合が逆転している。

図6

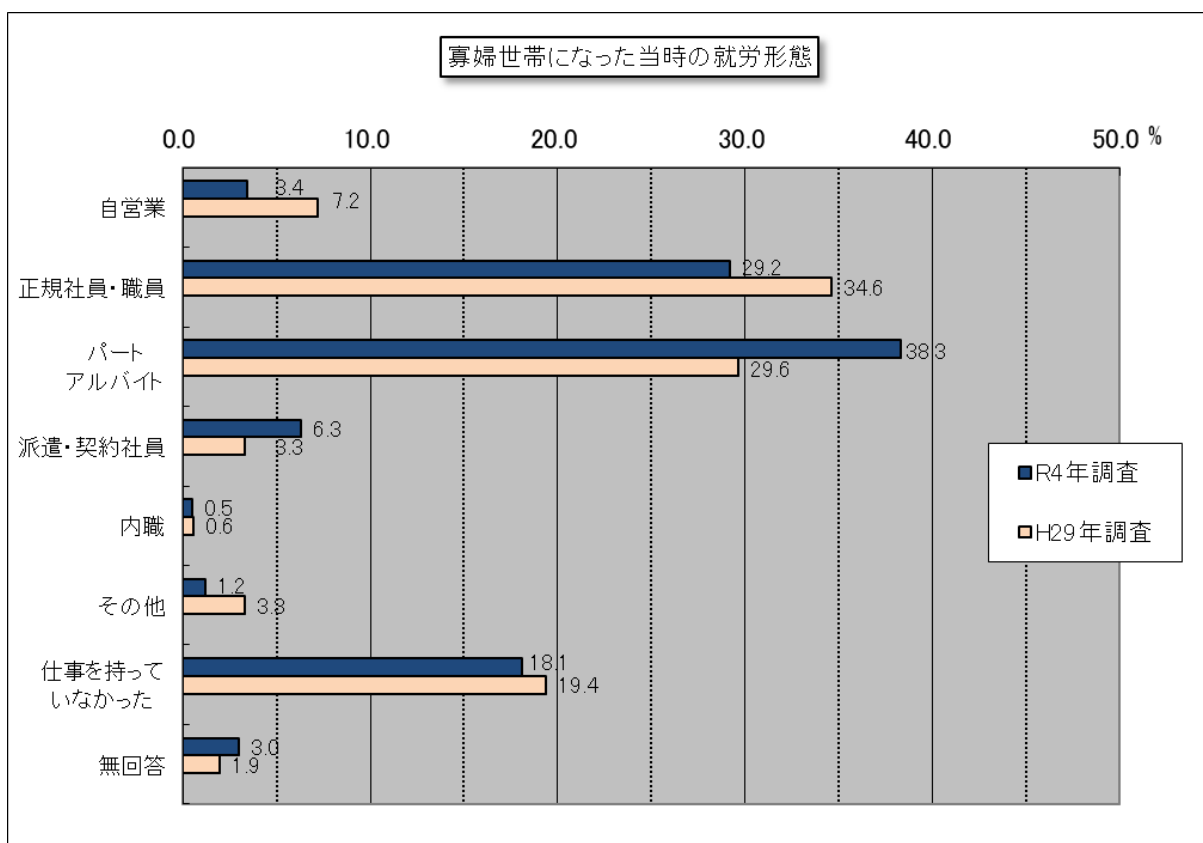


表6 寡婦世帯になった当時の就労形態

(単位：世帯、%)

区分	合計	自営業	正規社員・職員	パート・アルバイト	派遣・契約社員	内職	その他	仕事を持っていなかった	無回答
標本数	742	25	217	284	47	4	9	134	22
構成比(%)	100.0	3.4	29.2	38.3	6.3	0.5	1.2	18.1	3.0
29年調査	361	7.2	34.6	29.6	3.3	0.6	3.3	19.4	1.9

## (2) 現在の就労状況

現在の仕事の有無については「仕事を持っている」が91.1%、「持っていない」が7.5%となっており、前回調査と比較すると「仕事を持っている」が8.6ポイント増加、「仕事を持っていない」が6.9ポイント減少している。

また、現在の就労形態は、「正規社員、正規職員」が54.2%と最も多く、次いで「パートタイマー、アルバイト職員」が18.7%、「派遣社員・契約社員」が10.1%と続いている。

図7

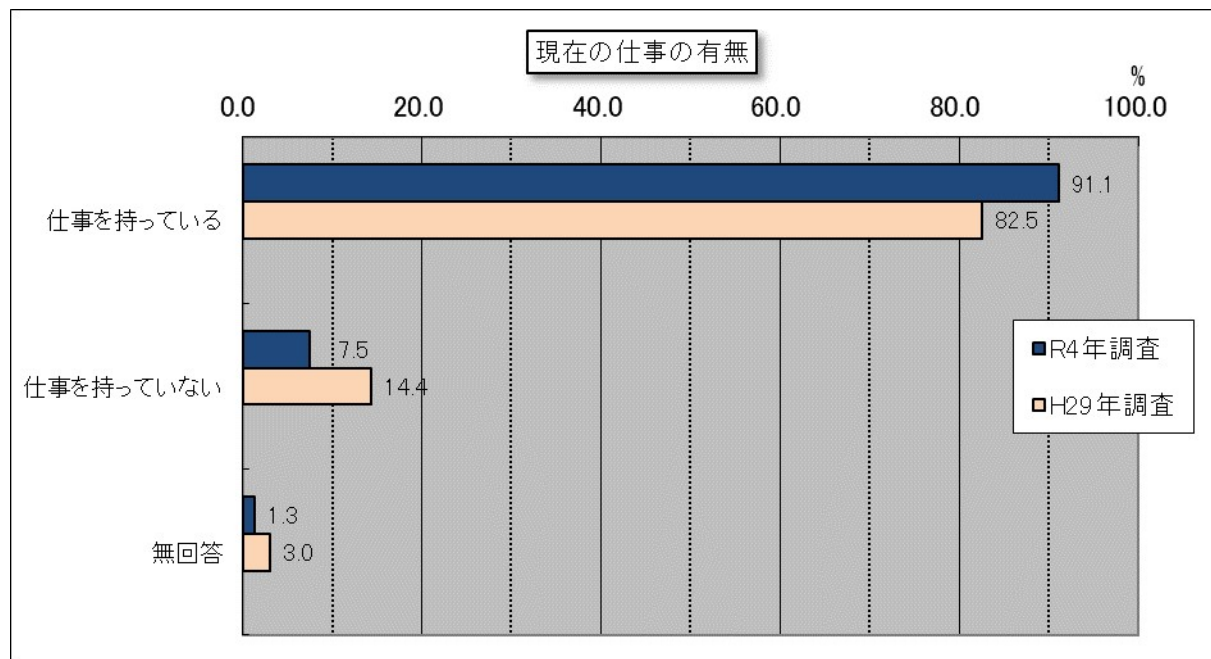


表7 現在の仕事の有無

(単位：世帯、%)

区分	合計	仕事を持つ ている	仕事を持つ ていない	無回答
標本数	742	676	56	10
構成比(%)	100.0	91.1	7.5	1.3
29年調査	361	82.5	14.4	3.0

図 8

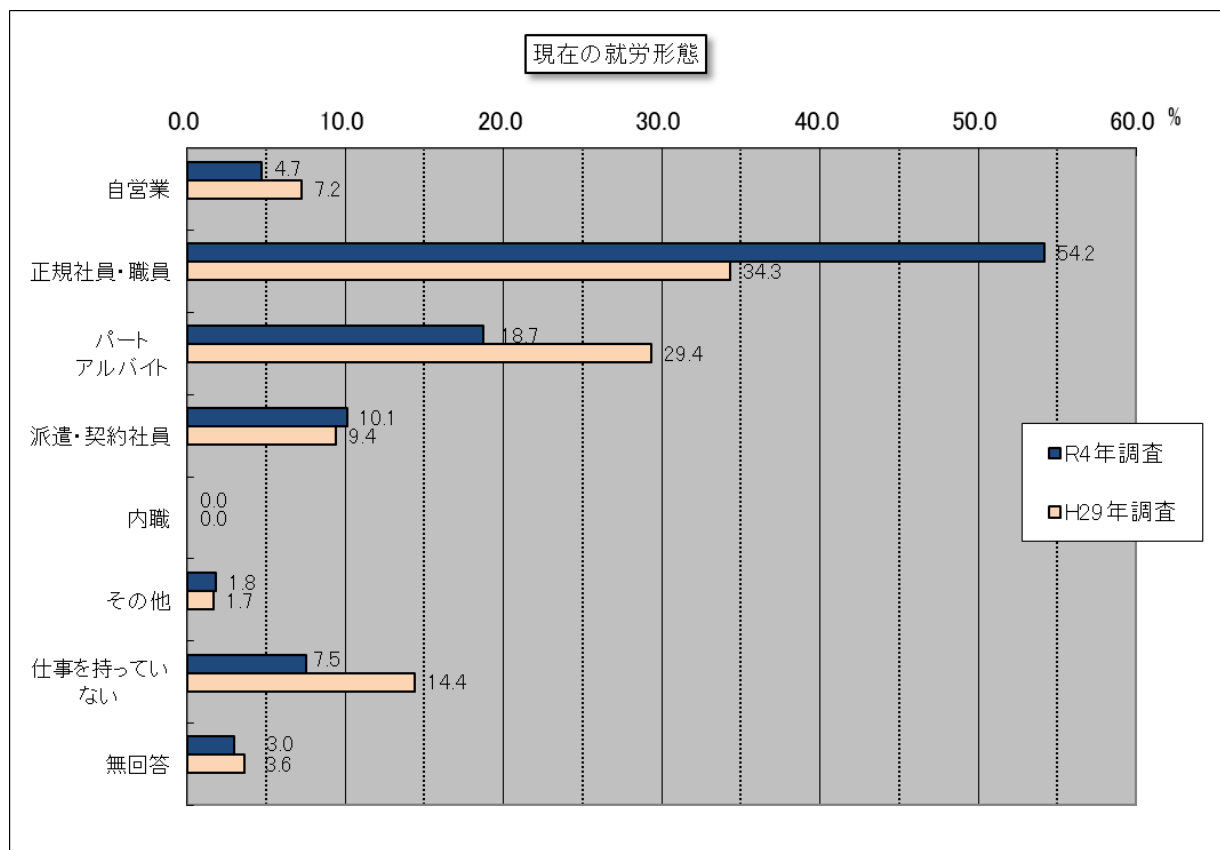


表 8 現在の就労形態

(単位：世帯、%)

区 分	標本数	自営業	正規社員・職員	パート・アルバイト	派遣・契約社員
標本数	742	35	402	139	75
構成比(%)	100	4.7	54.2	18.7	10.1
29年調査	361	7.2	34.3	29.4	9.4

内職	その他	仕事を持っていない	無回答
0	13	56	22
0.0	1.8	7.5	3.0
0.0	1.7	14.4	3.6



### (3) 現在の仕事の職種

現在の仕事の職種は「事務職」が25.9%と最も多く、次いで、医師、看護師、教員等の「専門職・技術職」が21.3%、理・美容師、介護職員等の「サービス業」が19.7%となっている。

前回調査と比較すると、「事務職」が6.8ポイント増加している。

図9

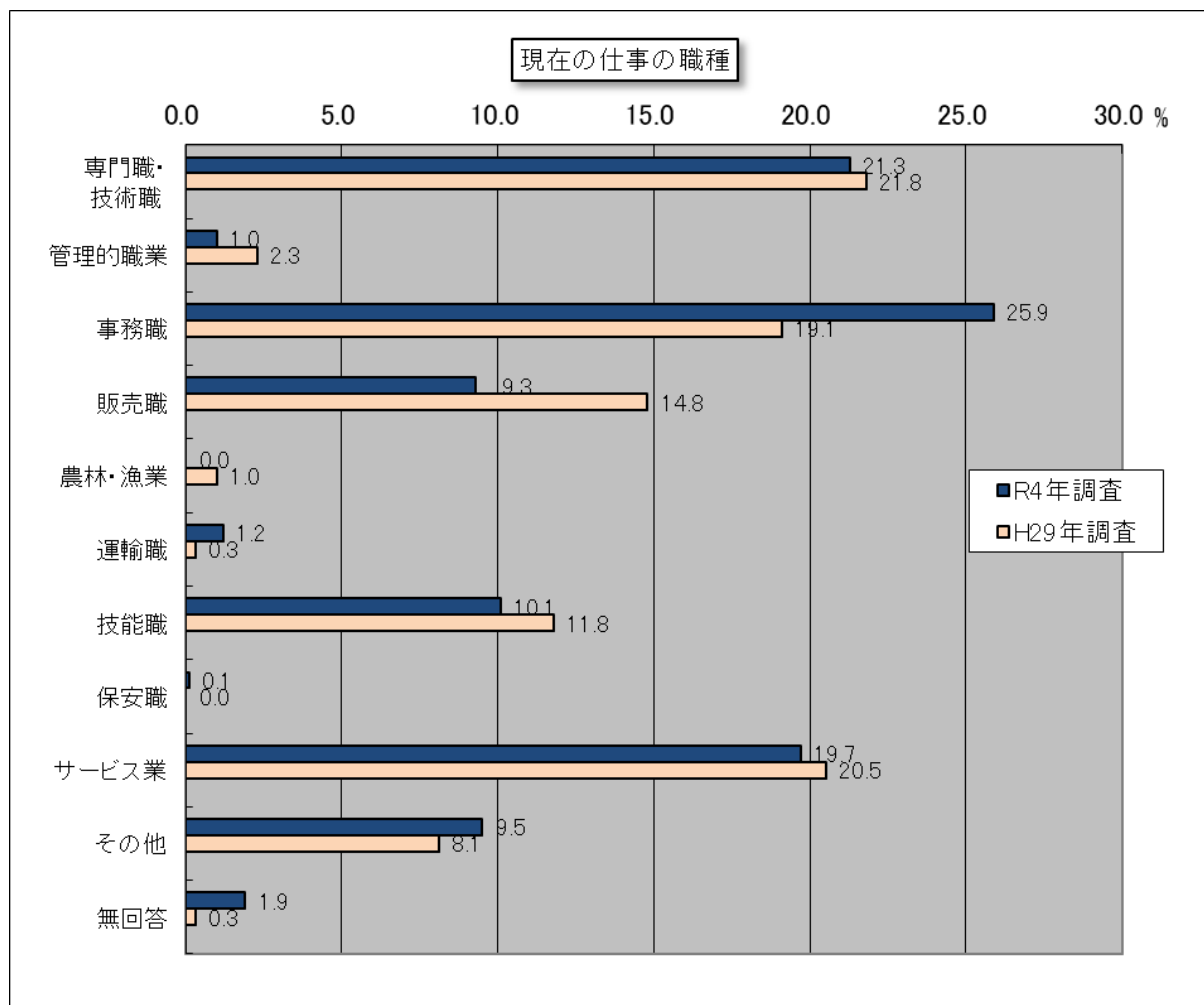


表9 現在の仕事の職種

(単位: 世帯、%)

区分	合計	専門職・技術職	管理的職業	事務職	販売	農林・漁業
標本数	676	144	7	175	63	0
構成比(%)	100.0	21.3	1.0	25.9	9.3	0.0
29年調査	298	21.8	2.3	19.1	14.8	1.0

運輸職	技能職	保安職	サービス業	その他	無回答
8	68	1	133	64	13
1.2	10.1	0.1	19.7	9.5	1.9
0.3	11.8	0.0	20.5	8.1	0.3

#### (4) 今の仕事を探した方法

今の仕事を探した方法については、「公共職業安定所の紹介」が34.3%、次いで「知人・友人」が23.7%、「求人広告」が14.5%と続いている。

前回調査と比較すると、「知人・友人」が3.8ポイント減少し、「公共職業安定所」が7.5ポイント増加している。

図10

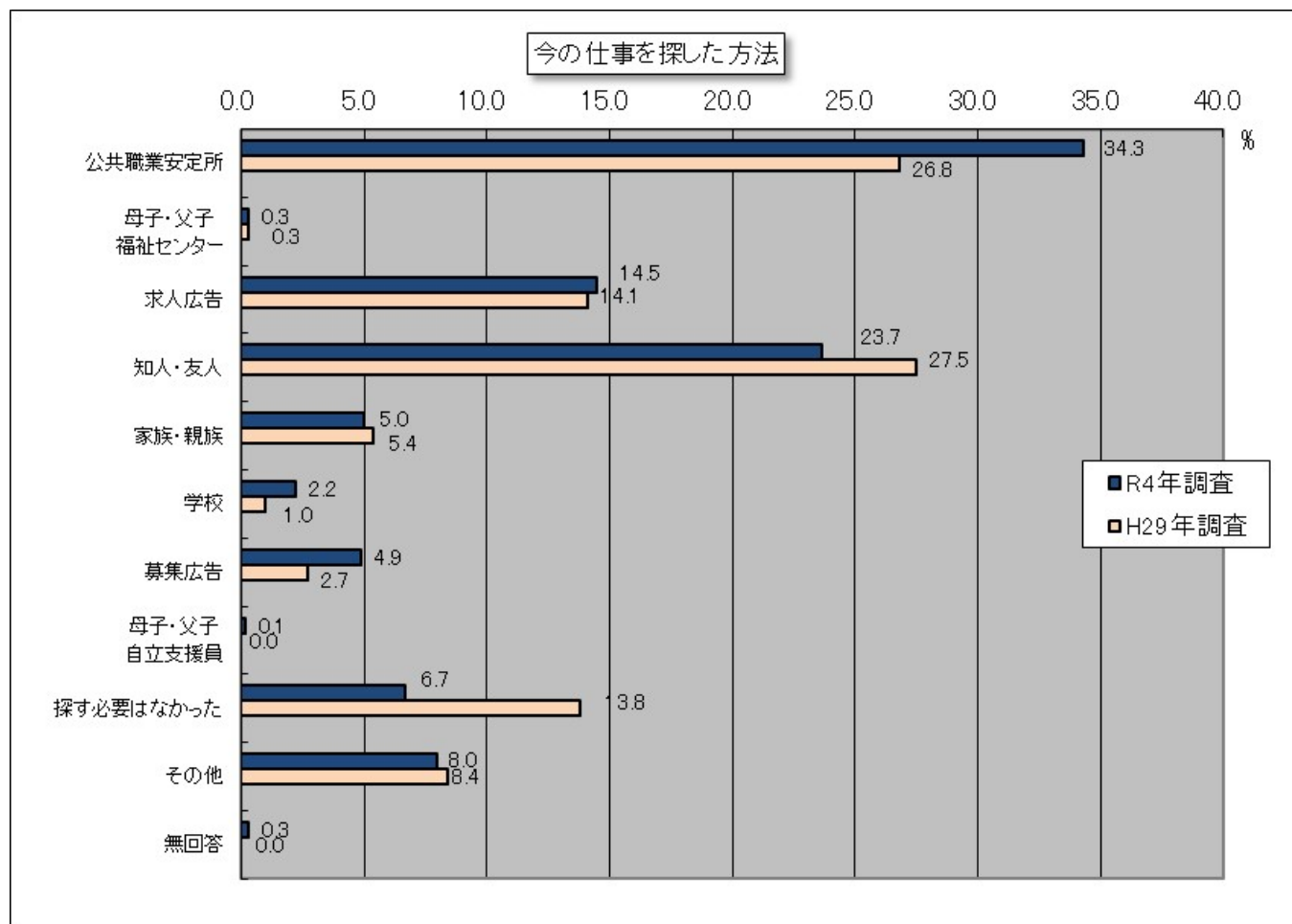


表10 今の仕事を探した方法

(単位：世帯、%)

区分	合計	公共職業安定所	母子・父子福祉センター	求人広告	知人・友人	家族・親族
標本数	676	232	2	98	160	34
構成比(%)	100.0	34.3	0.3	14.5	23.7	5.0
29年調査	298	26.8	0.3	14.1	27.5	5.4

学校	募集広告	母子・父子自立支援員	探す必要はなかった	その他	無回答
15	33	1	45	54	2
2.2	4.9	0.1	6.7	8.0	0.3
1.0	2.7	0.0	13.8	8.4	0.0

### (5) 1日の平均労働時間

1日の平均労働時間は、前回調査と同様「7～9時間未満」が65.1%と最も多く、次いで「9～11時間未満」が13.9%、「5～7時間未満」が11.8%となっている。

前回調査と比較すると、「5～7時間未満」が7.3ポイント減少し、「7～9時間未満」が10.1ポイント増加している。

図 1 1

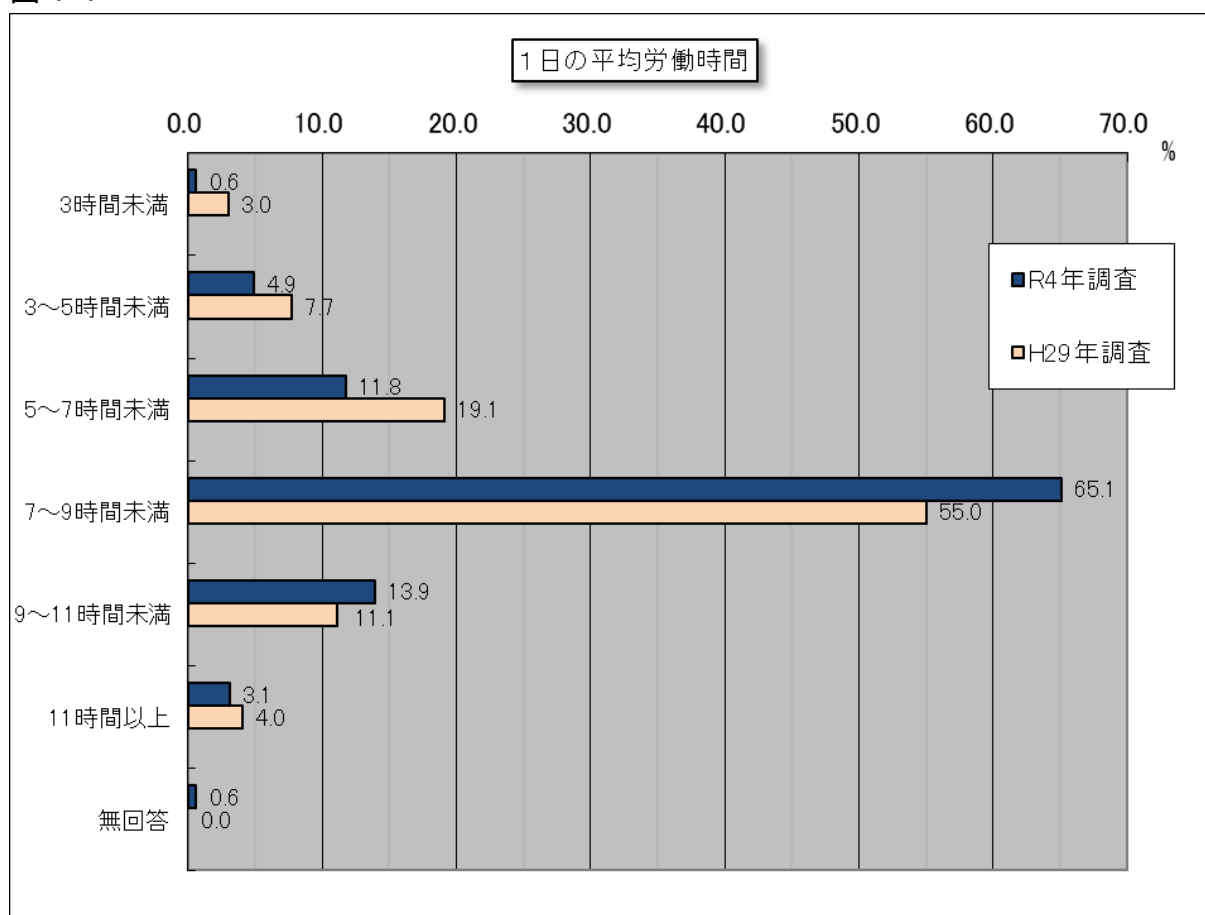


表 1 1 1日の平均労働時間

(単位：世帯、%)

区分	合計	3時間未満	3～5時間未満	5～7時間未満	7～9時間未満	9～11時間未満	11時間以上	無回答
標本数	676	4	33	80	440	94	21	4
構成比(%)	100.0	0.6	4.9	11.8	65.1	13.9	3.1	0.6
29年調査	298	3.0	7.7	19.1	55.0	11.1	4.0	0.0

## (6) 今の仕事の継続意向

今の仕事を続けることについては、前回調査と同様「今の仕事を続けたい」が56.4%と最も多く、次いで「転職したいが続けざるを得ない」が22.9%、「転職したい」が6.1%と続いている。

図 1 2

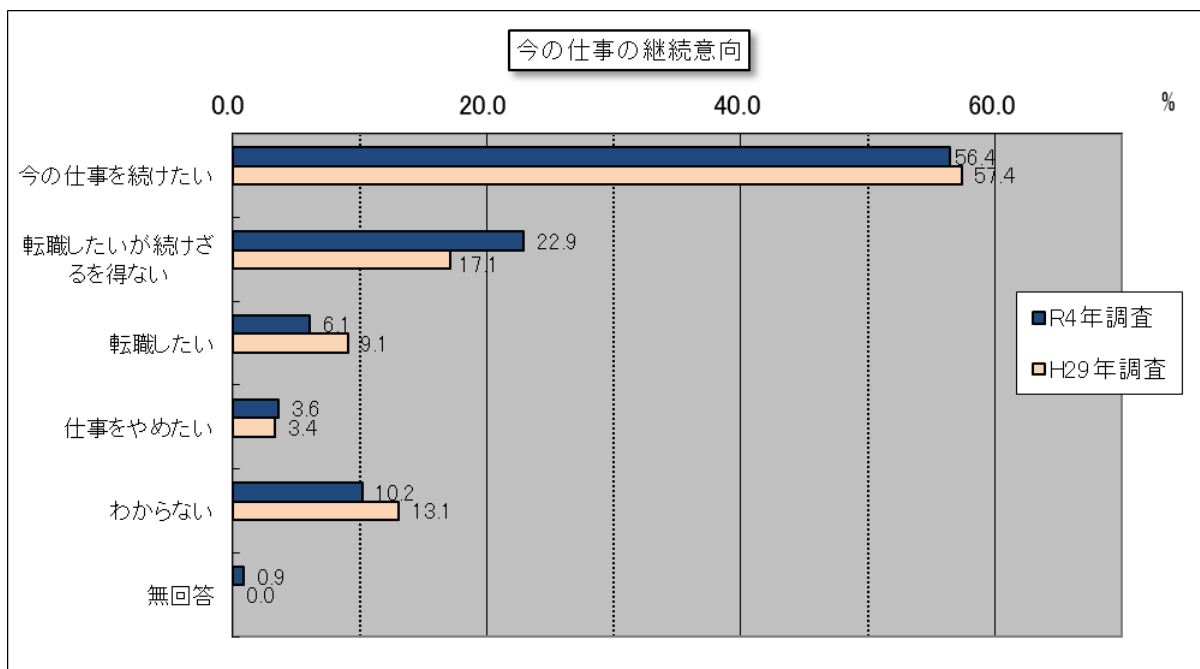


表 1 2 今の仕事の継続意向

(単位：世帯、%)

区分	合計	今の仕事を 続けたい	転職したい が続けざる を得ない	転職したい	仕事を やめたい	わからない	無回答
標本数	676	381	155	41	24	69	6
構成比(%)	100.0	56.4	22.9	6.1	3.6	10.2	0.9
29年調査	298	57.4	17.1	9.1	3.4	13.1	0.0

(7) 転職希望、仕事をやめたい理由

転職希望又は仕事をやめたい理由は、「収入が少ない」が49.2%と最も多く、次いで「仕事  
がきつい」が36.9%、「健康に不安」が27.7%、「職場の人間関係」が23.1%となっている。

図 1 3

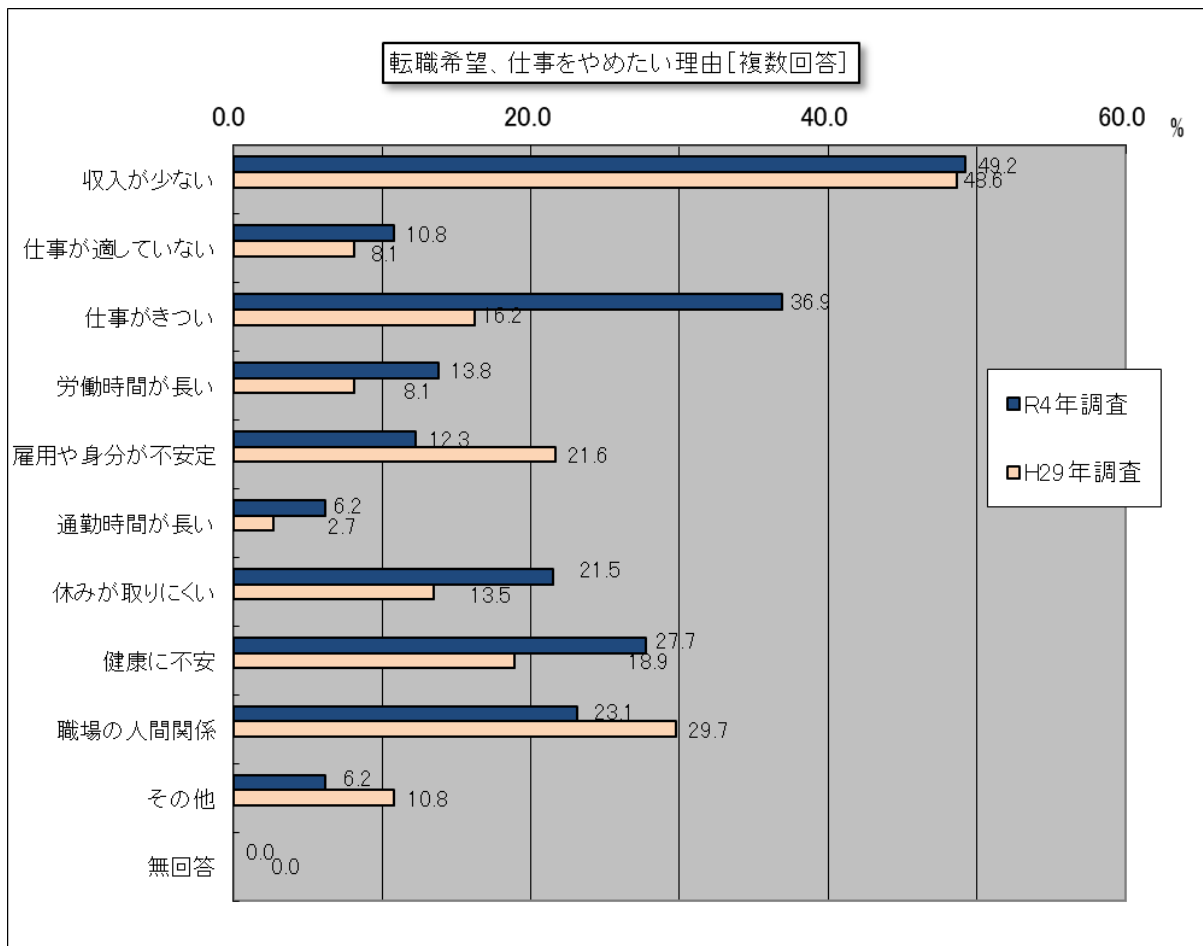


表 1 3 転職希望、仕事をやめたい理由 [複数回答] (単位：世帯、%)

区 分	合 計	収入が 少ない	仕事が適し ていない	仕事がき つい	労働時間 が長い	雇用や身分 が不安定
標本数	65	32	7	24	9	8
構成比(%)		49.2	10.8	36.9	13.8	12.3
29年調査	37	48.6	8.1	16.2	8.1	21.6

通勤時間 が長い	休みが取 りにくい	健康に 不安	職場の 人間関係	その他	無回答
4	14	18	15	4	0
6.2	21.5	27.7	23.1	6.2	0.0
2.7	13.5	18.9	29.7	10.8	0.0

### (8) 就業していない理由

現在就業していない理由は、「自分が病気、病弱のため」が37.5%と最も多く、次いで「求職中」が17.9%、「親族の世話や介護のため」が14.3%となっている。

図 1 4

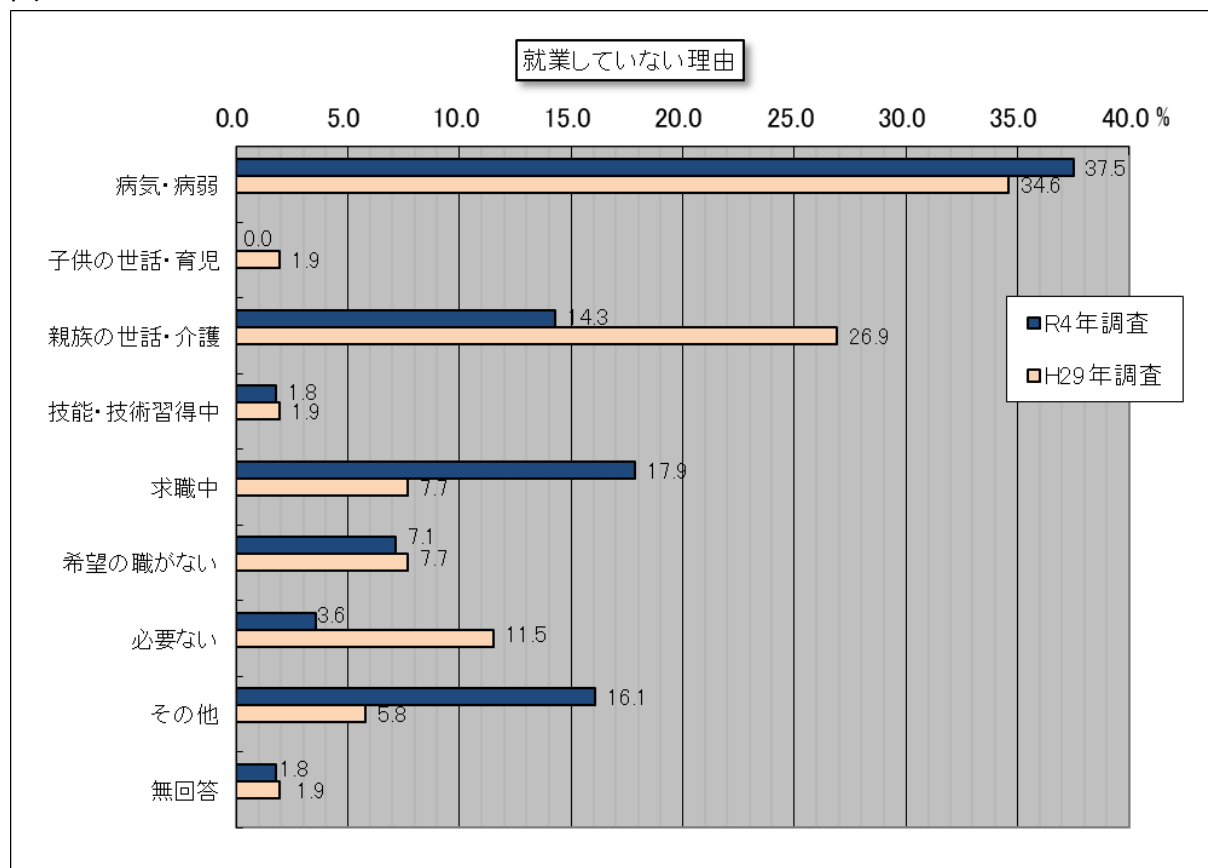


表 1 4 就業していない理由

(単位：世帯、%)

区 分	合 計	病気・病弱	子どもの世 話・育児	親族の世 話・介護	技能・技術 習得中
標本数	56	21	0	8	1
構成比 (%)	100.0	37.5	0.0	14.3	1.8
29年調査	52	34.6	1.9	26.9	1.9

	求職中	希望の職が ない	必要ない	その他	無回答
	10	4	2	9	1
	17.9	7.1	3.6	16.1	1.8
	7.7	7.7	11.5	5.8	1.9

### (9) 就業の意向

現在就業していない人の今後の就業の意向については、「いずれ仕事を持ちたい」が28.6%、「現在仕事を探している」が23.2%、「仕事を持つつもりはない」が19.6%で、就業の意向がある人が、就業の意向がない人を上回っている。また、「わからない」が23.2%となっている。

図 1 5

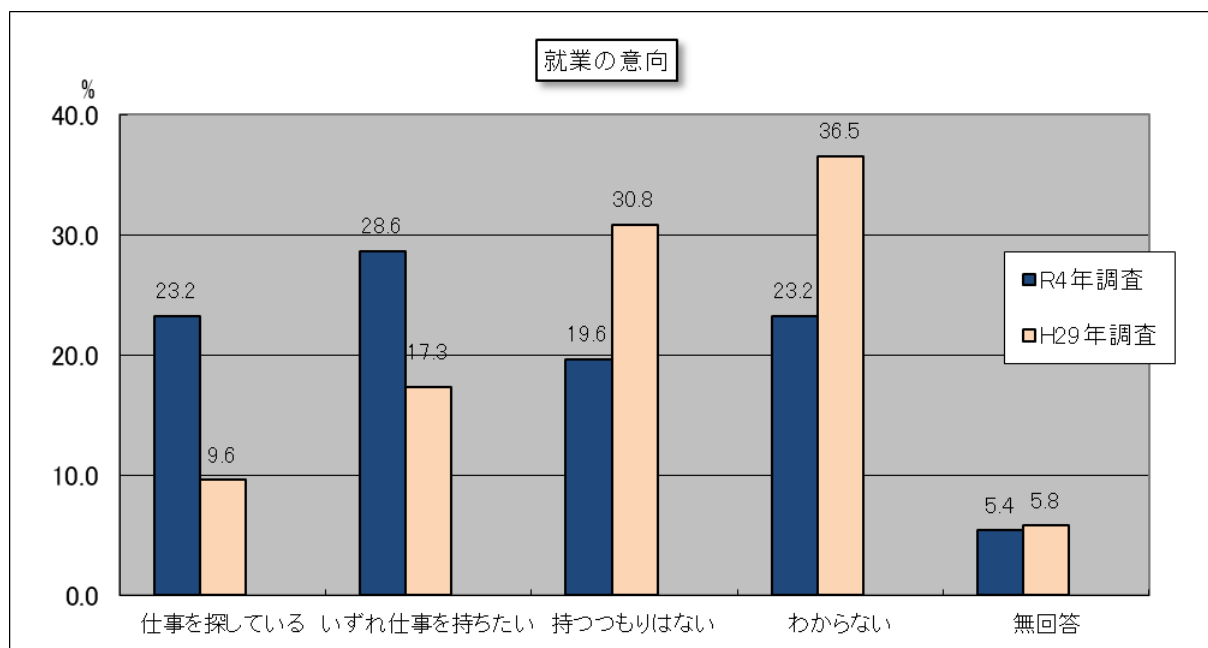


表 1 5 就業の意向

(単位：世帯、%)

区 分	合 計	仕事を探している	いずれ仕事を持ちたい	持つつもりはない	わからない	無回答
標本数	56	13	16	11	13	3
構成比 (%)	100.0	23.2	28.6	19.6	23.2	5.4
29年調査	52	9.6	17.3	30.8	36.5	5.8

### (10) 希望する就労形態

「現在仕事を探している」「いずれ仕事を持ちたい」という人が希望する就労形態は、「正規社員、正規職員」が41.4%と最も多く、次いで、「パートタイマー、アルバイト職員」が34.5%、「内職」が13.8%となっている。

寡婦世帯でも母子世帯と同様に「正規社員、正規職員」を希望する人が「パートタイマー、アルバイト職員」を希望する人を上回っている。

図16

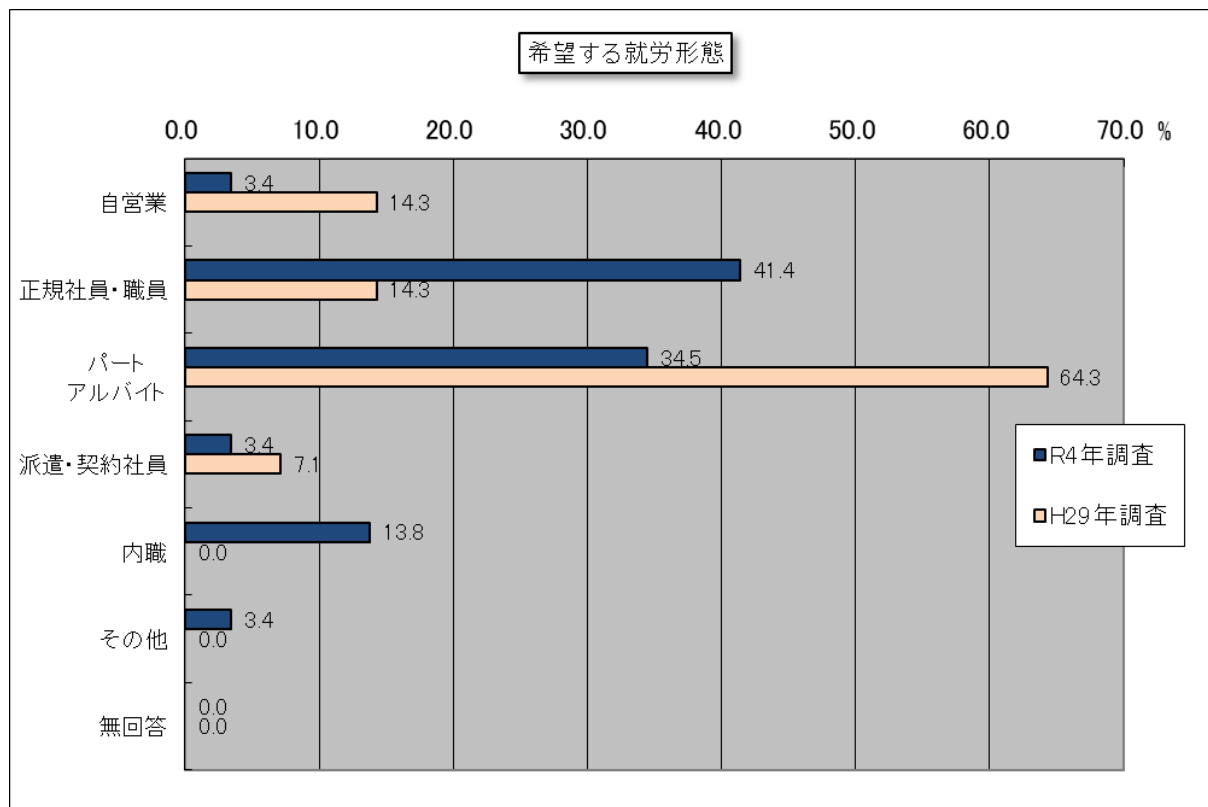


表16 希望する就労形態

(単位：世帯、%)

区分	合計	自営業	正規社員・ 職員	パート・ アルバイト	派遣・契約 社員	内職	その他	無回答
標本数	29	1	12	10	1	4	1	0
構成比(%)	100.0	3.4	41.4	34.5	3.4	13.8	3.4	0.0
29年調査	14	14.3	14.3	64.3	7.1	0.0	0.0	0.0



### (11) 仕事を探す方法

「現在仕事を探している」「いずれ仕事を持ちたい」という人が仕事を探す方法については、「公共職業安定所の紹介」が55.2%と最も多く、次いで「新聞、チラシ、雑誌などの求人広告」が24.1%となっている。

図17

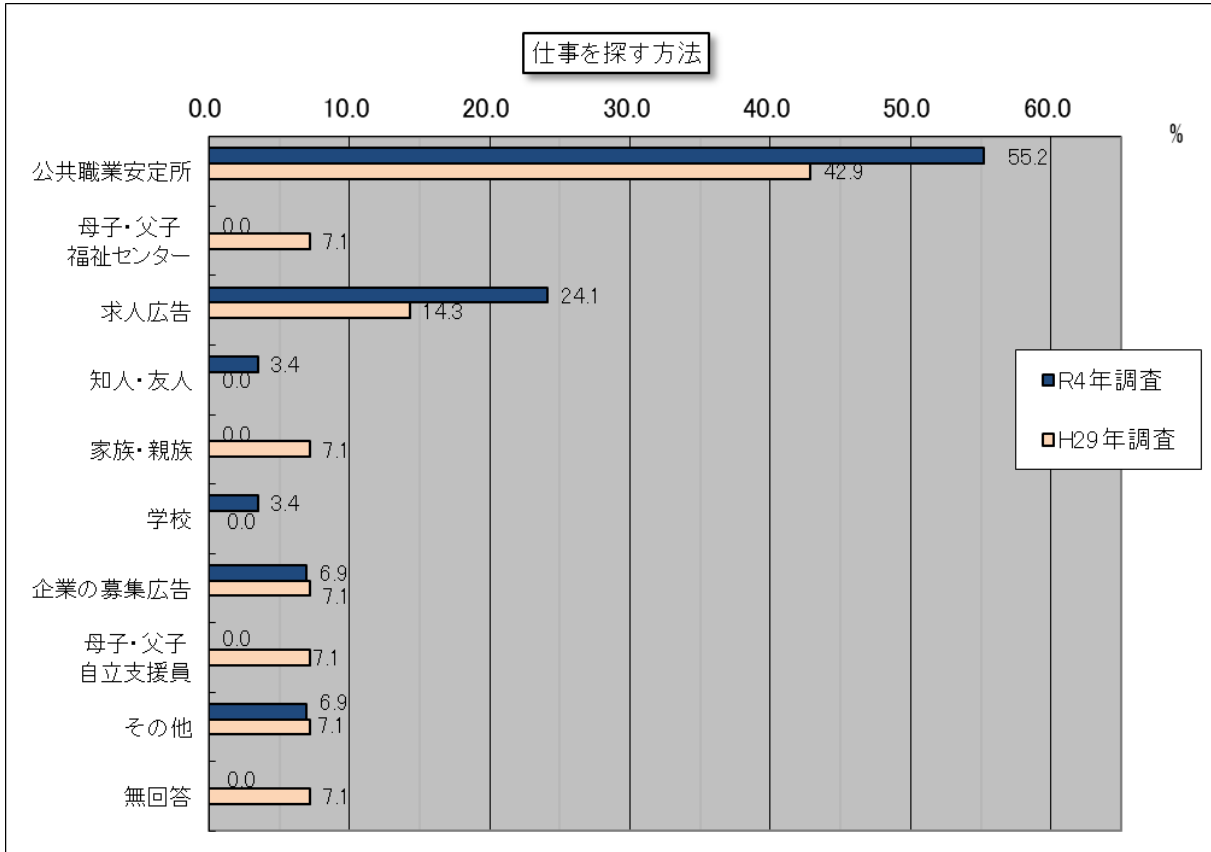


表17 仕事を探す方法

(単位：世帯、%)

区分	合計	公共職業安定所	母子・父子福祉センター	求人広告	友人・知人	家族・親族
標本数	29	16	0	7	1	0
構成比(%)		55.2	0.0	24.1	3.4	0.0
29年調査	14	42.9	7.1	14.3	0.0	7.1
		学校	企業の募集広告	母子・父子自立支援員	その他	無回答
		1	2	0	2	0
		3.4	6.9	0.0	6.9	0.0
		0.0	7.1	7.1	7.1	7.1

#### 4 住居の状況

##### (1) 住居の種類

現在住んでいる住居の種類については、「家族名義の持家」が30.2%と最も多く、次いで「自分名義の持家」が24.5%、「民間借家、アパート」が19.7%、「県営住宅、市町営住宅」18.1%となっている。

前回調査と比較すると、自分や家族名義の「持家」の割合が、54.7%と9.6ポイント減少し、「民間借家、アパート」や「県営・市町営住宅」の「賃貸住宅」の割合が、9.8ポイント増加している。

図 1 8

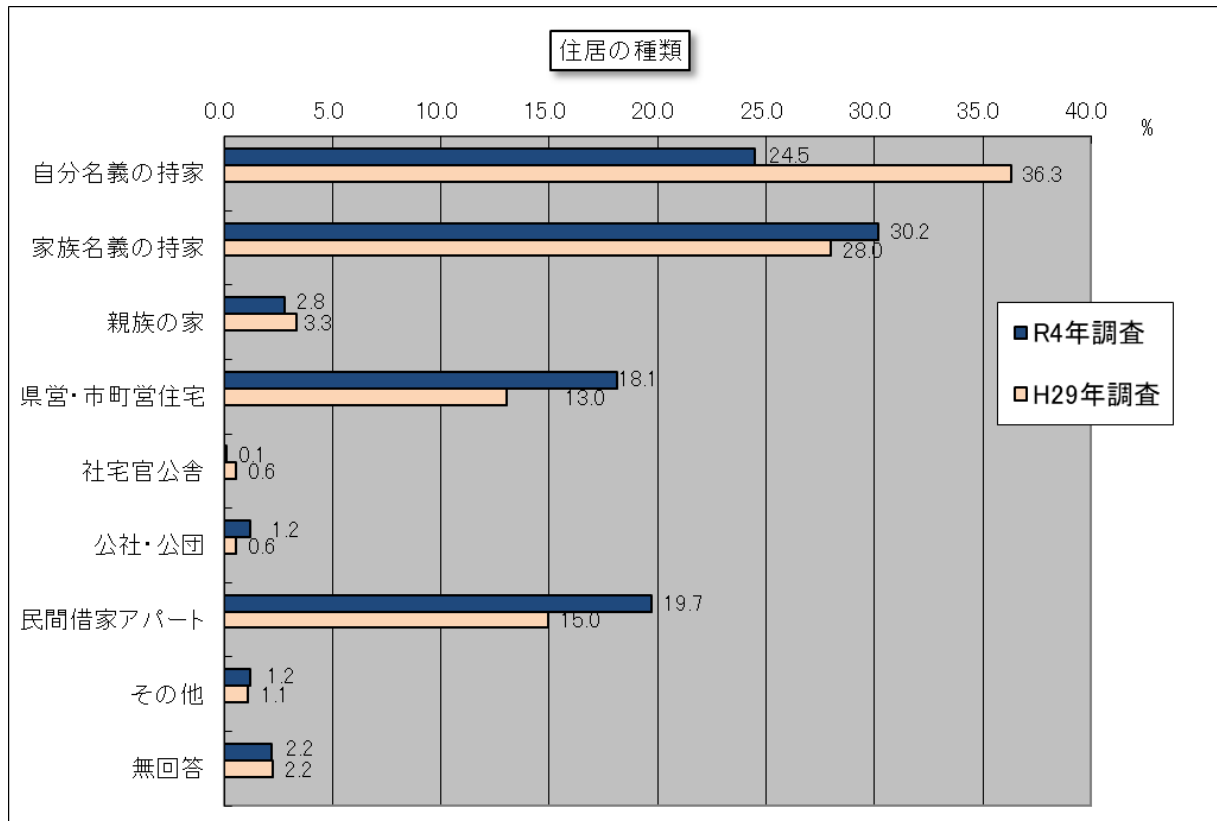


表 1 8 住居の種類

(単位：世帯、%)

区分	合計	自分名義の持家	家族名義の持家	親族の家	県営・市町営住宅
標本数	742	182	224	21	134
構成比 (%)	100.0	24.5	30.2	2.8	18.1
29年調査	361	36.3	28.0	3.3	13.0

社宅官公舎	公社・公団	民間借家・アパート	その他	無回答
1	9	146	9	16
0.1	1.2	19.7	1.2	2.2
0.6	0.6	15.0	1.1	2.2

(2) 家賃

持家以外に住んでいる人の1か月の家賃は、「50,000円～60,000円未満」が12.2%と最も多く、次いで「25,000円～30,000円未満」が10.3%となっている。

図19

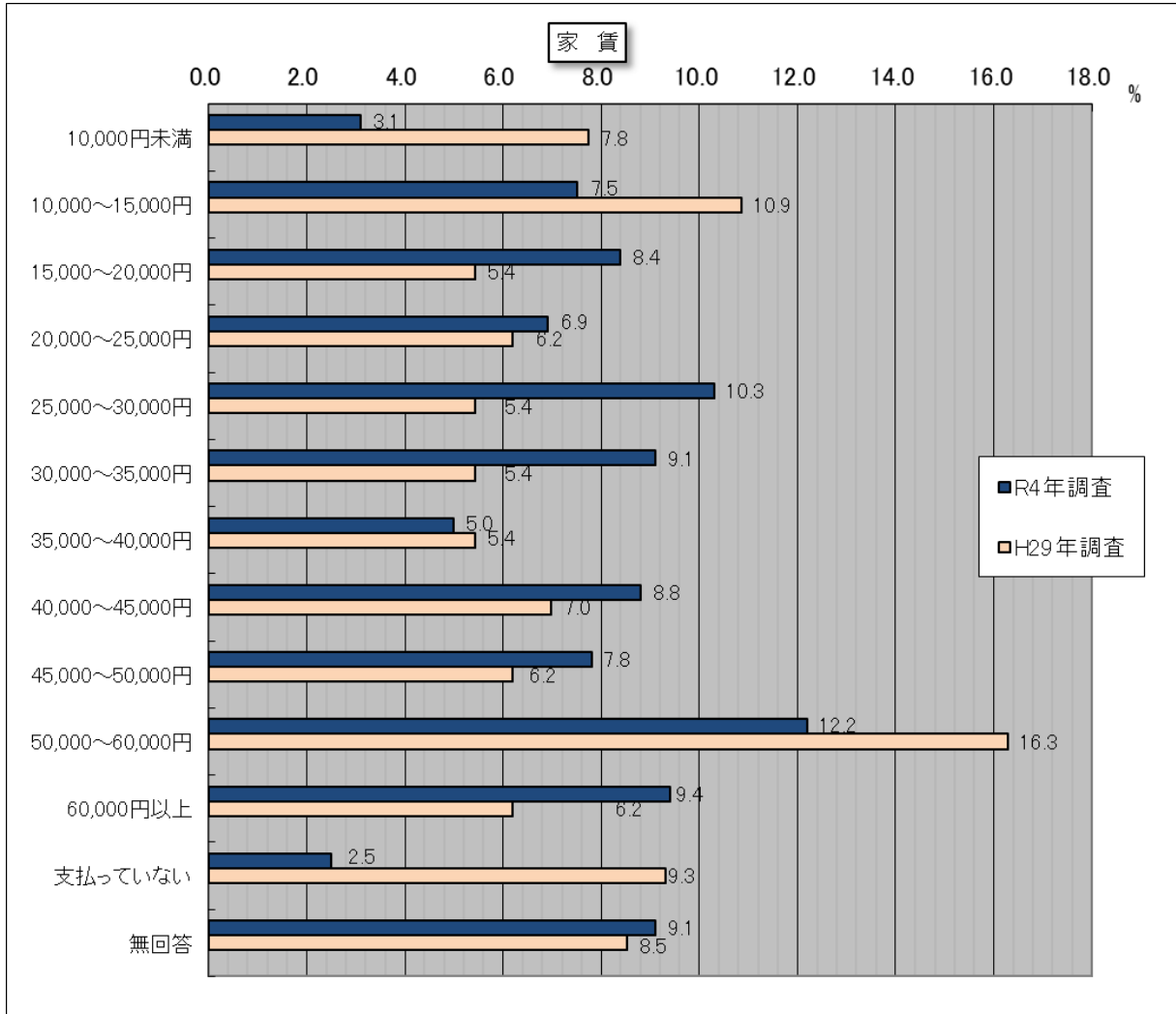


表19 家賃

(単位：世帯、%)

区分	合計	1万円未満	1～1.5万円	1.5～2万円	2～2.5万円	2.5～3万円	3～3.5万円
標本数	320	10	24	27	22	33	29
構成比(%)	100.0	3.1	7.5	8.4	6.9	10.3	9.1
29年調査	129	7.8	10.9	5.4	6.2	5.4	5.4

	3.5～4万円	4～4.5万円	4.5～5万円	5～6万円	6万円以上	支払っていない	無回答
	16	28	25	39	30	8	29
	5.0	8.8	7.8	12.2	9.4	2.5	9.1
	5.4	7.0	6.2	16.3	6.2	9.3	8.5

### (3) 公営住宅への入居希望

公営住宅への入居希望は、「入居を希望する」が 13.1%、「入居を希望しない」が 44.7%と、前回調査と同様「入居を希望しない」が「入居を希望する」を上回っている。

図 20

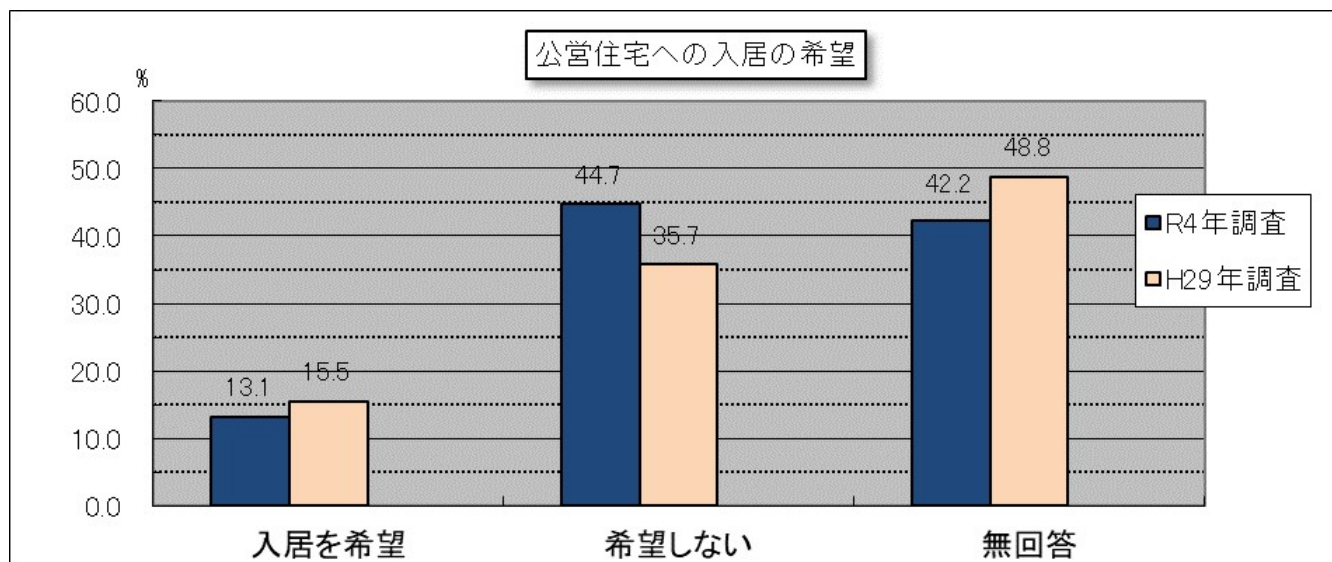


表 20 入居希望[公営住宅] (単位：世帯、%)

区分	合計	入居を希望	希望しない	無回答
標本数	742	97	332	313
構成比 (%)	100.0	13.1	44.7	42.2
29年調査	361	15.5	35.7	48.8

## 5 収入や生活の状況

### (1) 主な収入源

世帯の主な収入源は、前回調査と同様「自分の仕事による収入」が82.5%と最も多く、次いで「家族の仕事による収入」と「年金」が3.8%となっている。

図22

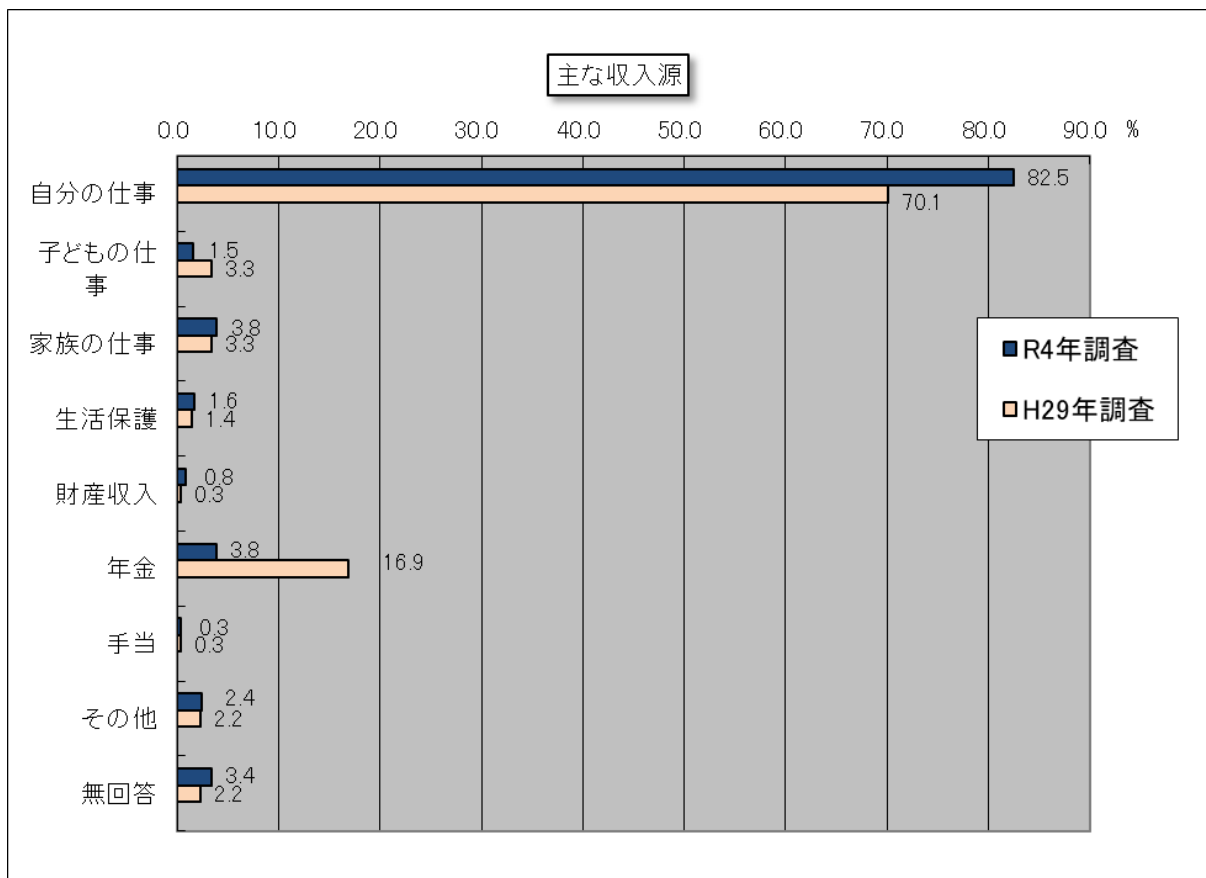


表22 主な収入源

(単位：世帯、%)

区分	合計	自分の仕事	子どもの仕事	家族の仕事	生活保護	財産収入
標本数	742	612	11	28	12	6
構成比(%)	100.0	82.5	1.5	3.8	1.6	0.8
29年調査	361	70.1	3.3	3.3	1.4	0.3

年金	手当	その他	無回答
28	2	18	25
3.8	0.3	2.4	3.4
16.9	0.3	2.2	2.2

## (2) その他の収入源

主な収入源以外の収入源としては、「自分の仕事による収入」が36.5%、「子どもの仕事による収入」が23.0%、「年金」が13.1%となっている

図 2 3

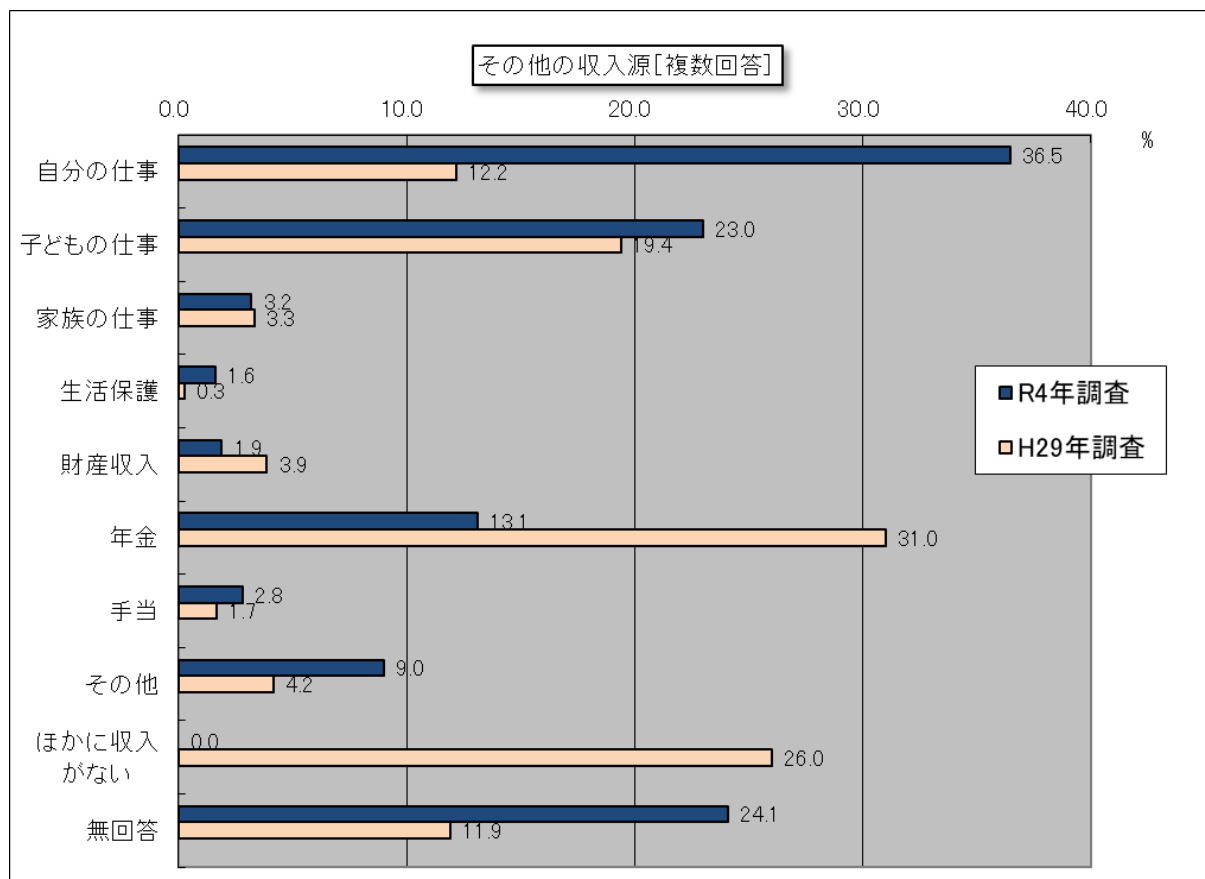


表 2 3 その他の収入源 [複数回答]

(単位：世帯、%)

区分	合計	自分の仕事	子どもの仕事	家族の仕事	生活保護	財産収入
標本数	742	271	171	24	12	14
構成比 (%)		36.5	23.0	3.2	1.6	1.9
29年調査	361	12.2	19.4	3.3	0.3	3.9
		年金	手当	その他	ほかに収入がない	無回答
		97	21	67	0	179
		13.1	2.8	9.0	0.0	24.1
		31.0	1.7	4.2	26.0	11.9

### (3) 年間収入

世帯の年間収入（年金を含み、生活保護費は除く）は、「300～400万円未満」が16.3%と最も多く、次いで「200～250万円未満」が14.2%、「400～500万円未満」が11.9%と続いている。

世帯の平均年収額は「346万円」で、前回調査時の「322万円」より24万円増加している。

図 2 4

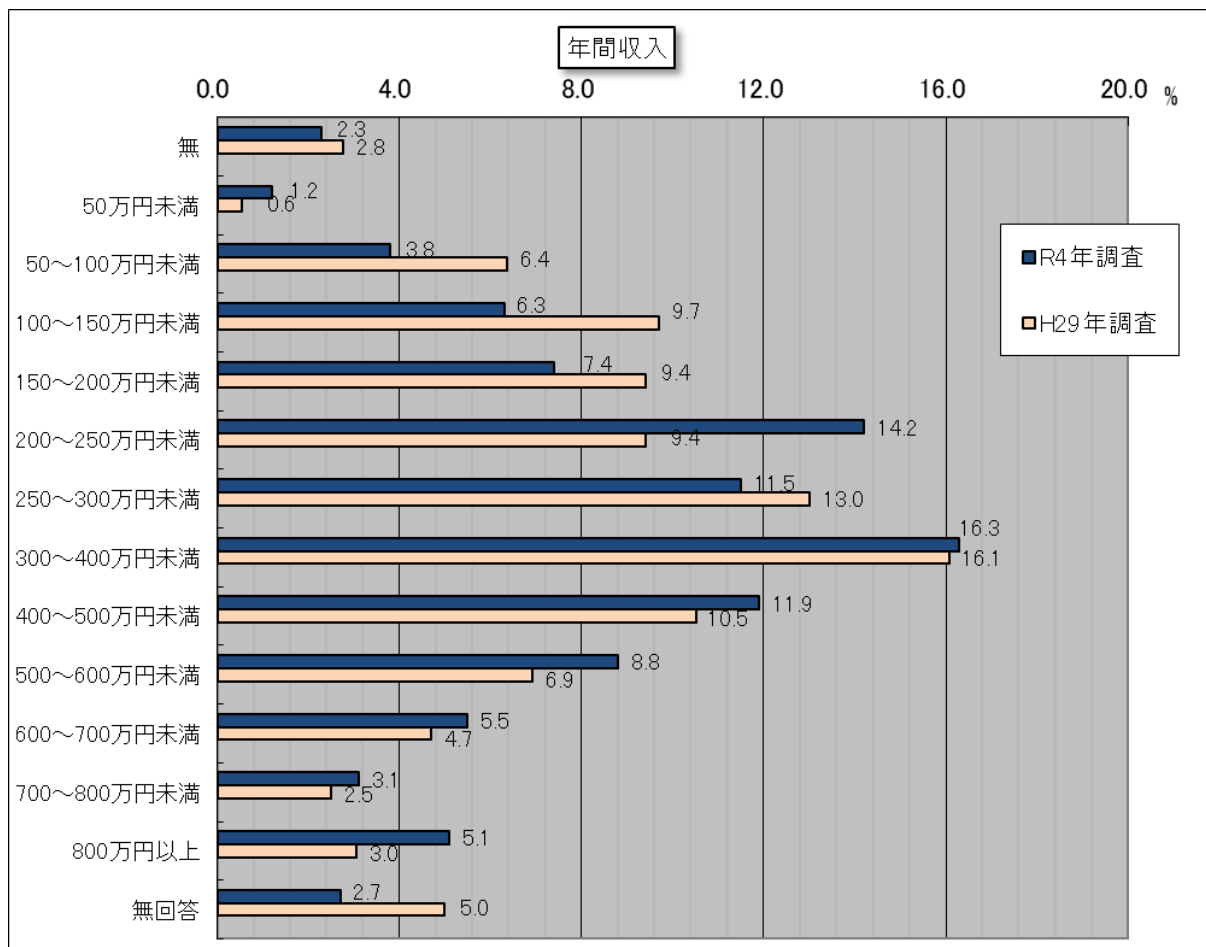


表 2 4 年間収入

(単位：世帯、%)

区分	合計	無	50万円未満	50～100万円未満	100～150万円未満	150～200万円未満	200～250万円未満	250～300万円未満
標本数	742	17	9	28	47	55	105	85
構成比 (%)	100.0	2.3	1.2	3.8	6.3	7.4	14.2	11.5
29年調査	361	2.8	0.6	6.4	9.7	9.4	9.4	13.0
		300～400万円未満	400～500万円未満	500～600万円未満	600～700万円未満	700～800万円未満	800万円以上	無回答
		121	88	65	41	23	38	20
		16.3	11.9	8.8	5.5	3.1	5.1	2.7
		16.1	10.5	6.9	4.7	2.5	3.0	5.0

#### (4) 世帯の課税状況

世帯の課税状況は、所得税については、「課税されている」が70.8%で、全体の7割を占めている。

また、市町村民税についても、「課税されている」が69.1%で、全体の7割となっている。

図 2 5

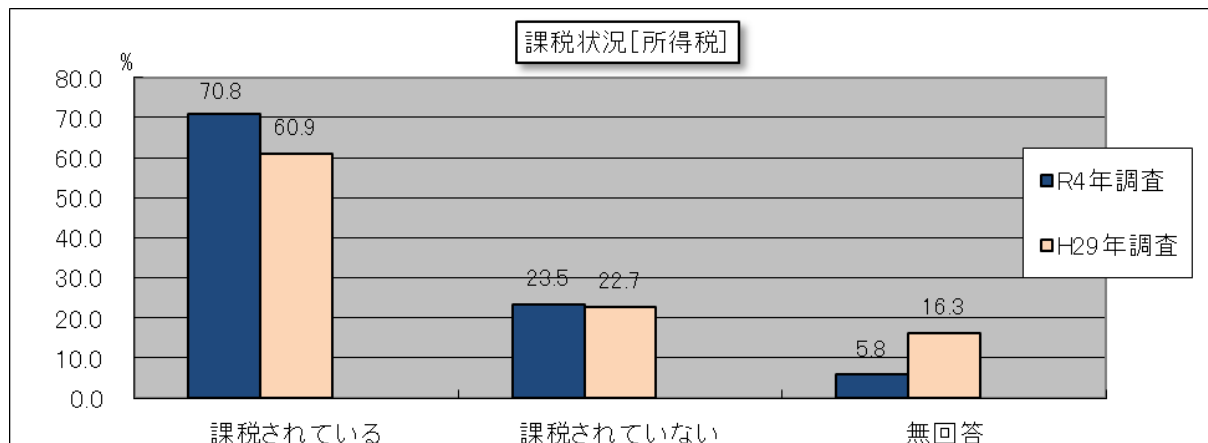


表 2 5 課税状況[所得税]

(単位：世帯、%)

区 分	合 計	課税されている	課税されていない	無回答
標本数	742	525	174	43
構成比 (%)	100.0	70.8	23.5	5.8
29年調査	361	60.9	22.7	16.3

図 2 6

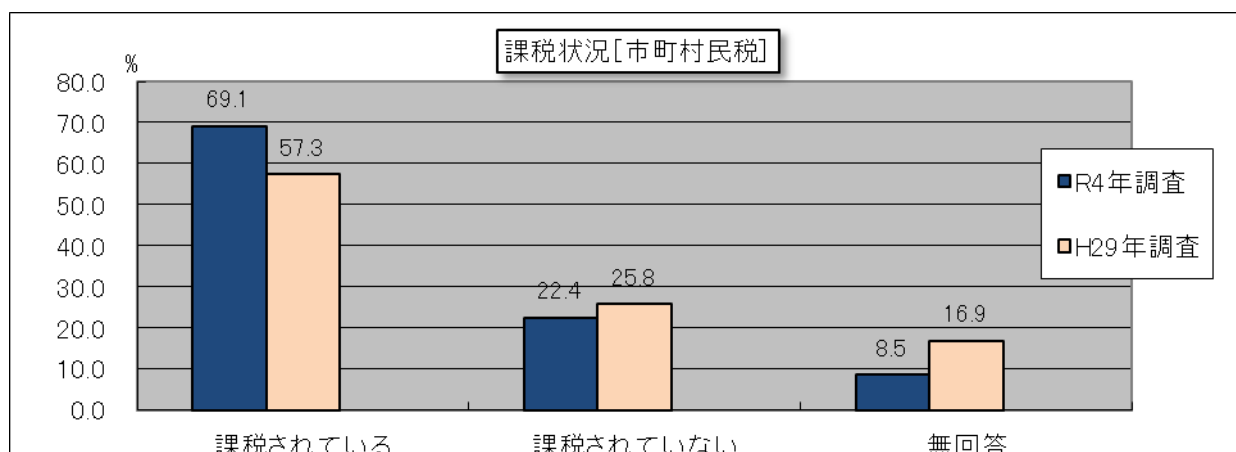


表 2 6 課税状況[市町村民税]

(単位：世帯、%)

区 分	合 計	課税されている	課税されていない	無回答
標本数	742	513	166	63
構成比 (%)	100.0	69.1	22.4	8.5
29年調査	361	57.3	25.8	16.9



### (5) 新型コロナウイルス感染症の仕事への影響

新型コロナウイルス感染症の仕事への影響は、「影響はなかった」が53.8%と最も多かった一方で、「仕事の量が減った」が12.0%、「失業、休業した」が4.6%となっており、2割弱の人は仕事が減ったと回答している。

図27

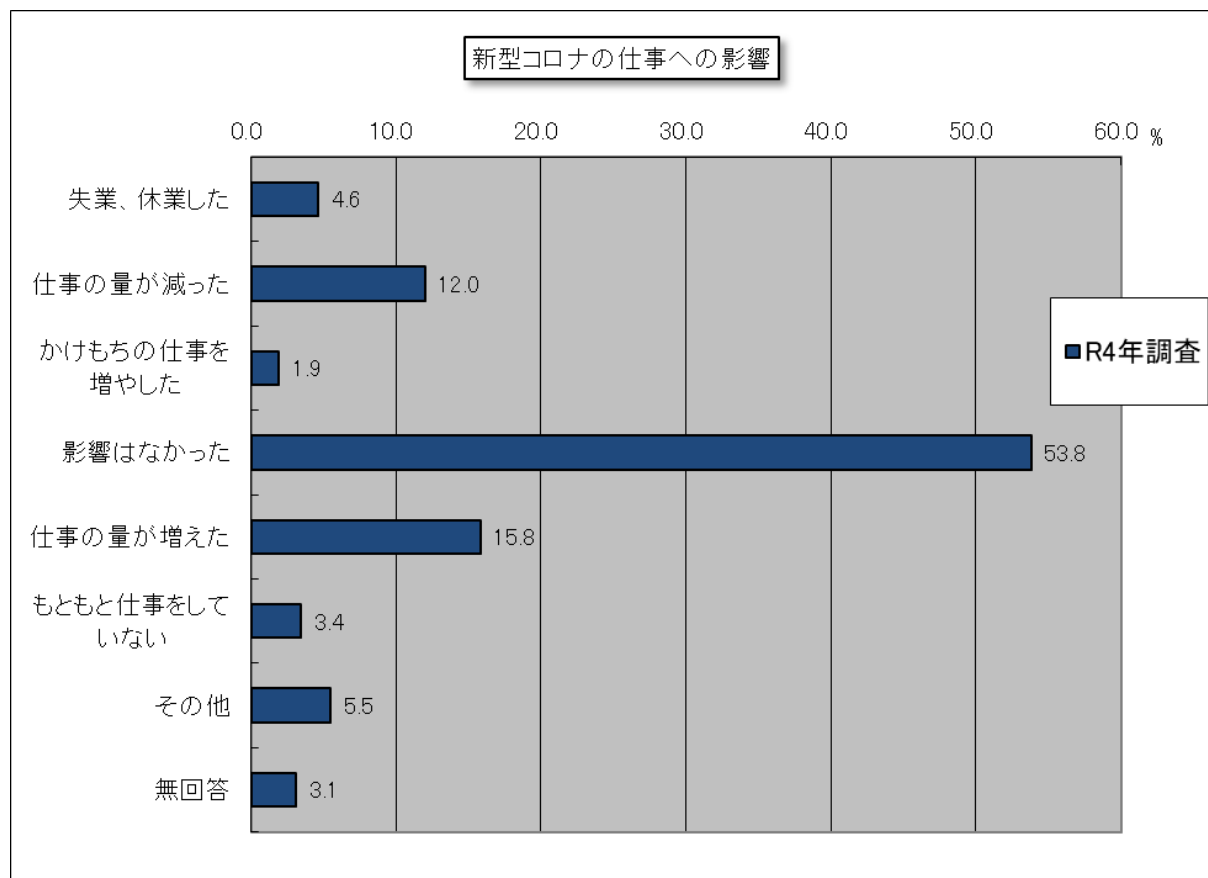


表27 新型コロナウイルス感染症の仕事への影響 (単位：世帯、%)

区分	合計	失業、休業した	仕事の量が減った	かけもちの仕事を増やした	影響はなかった
標本数	742	34	89	14	399
構成比	100.0	4.6	12.0	1.9	53.8

仕事の量が増えた	もともと仕事をしていない	その他	無回答
117	25	41	23
15.8	3.4	5.5	3.1

### (6) 新型コロナウイルス感染症の世帯収入への影響

新型コロナウイルス感染症の世帯収入への影響は、「変わらない」が69.1%と最も多かった一方で、「大きく減った」が9.8%、「2割程度減った」が14.6%となっており、4人に1人は世帯収入が減ったと回答している。

図 2 8

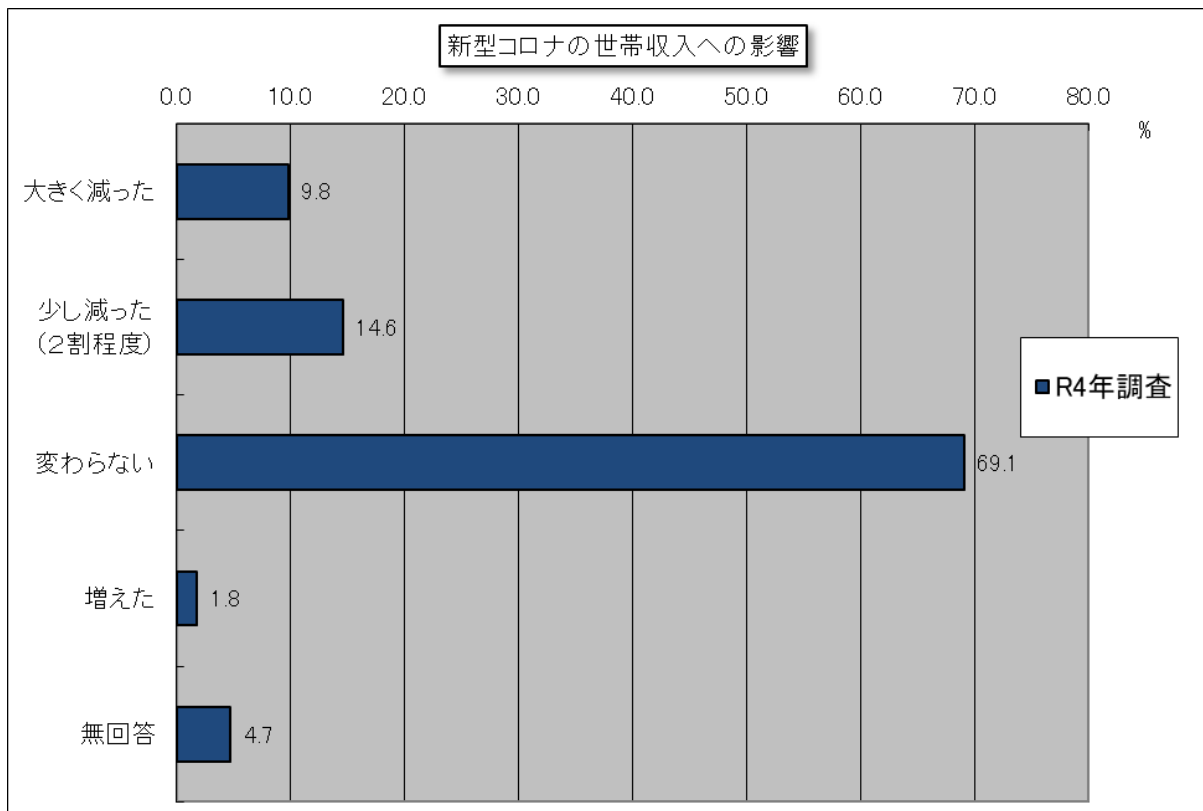


表 2 8 新型コロナウイルス感染症の世帯収入への影響

(単位：世帯、%)

区 分	合計	大きく減った	少し減った (2割程度)	変わらない	増えた	無回答
標本数	742	73	108	513	13	35
構成比 (%)	100.0	9.8	14.6	69.1	1.8	4.7

### (7) 新型コロナウイルス感染症の生活への影響

新型コロナウイルス感染症影響で世帯収入が「大きく減った」「2割程度減った」と回答した人のうち、「精神的に不安になることが増えた」と回答した人の割合が78.5%と最も多く、「家事のストレスが増えた」と合わせ、精神的な不調を感じる人が多数を占めた。

図 2 9

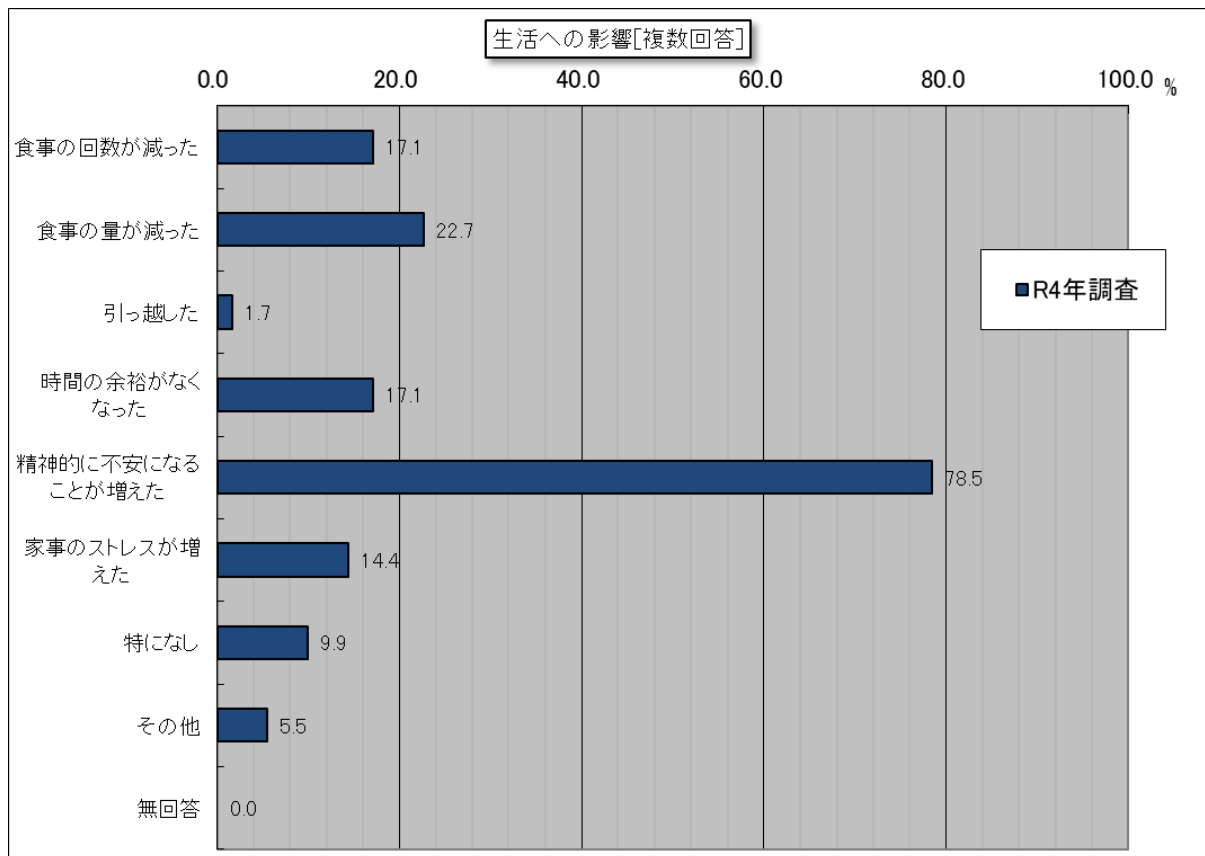


表 2 9 新型コロナウイルス感染症の生活への影響[複数回答]

(単位：世帯、%)

区分	合計	食事が減った	食事が減った	引っ越した	時間の余裕がなくなった
標本数	181	31	41	3	31
構成比 (%)		17.1	22.7	1.7	17.1

精神的に不安になることが増えた	家事のストレスが増えた	特になし	その他	無回答
142	26	18	10	0
78.5	14.4	9.9	5.5	0.0

### (8) 新型コロナウイルス感染症の影響により収入が減ったときの対応

新型コロナウイルス感染症影響で世帯収入が「大きく減った」「2割程度減った」と回答した人のうち、どのように対応したかを尋ねたところ、「節約した」が72.4%と最も多く、次いで「貯金を取り崩した」が38.7%と続いている。

一方で、節約や貯金の取り崩しでは賄いきれず、「親類や知人に借金した」が16.0%、「金融機関から借り入れた」が16.0%、「公的機関の貸付制度を利用した」が5.5%等、借金に頼る世帯もあった。

図30

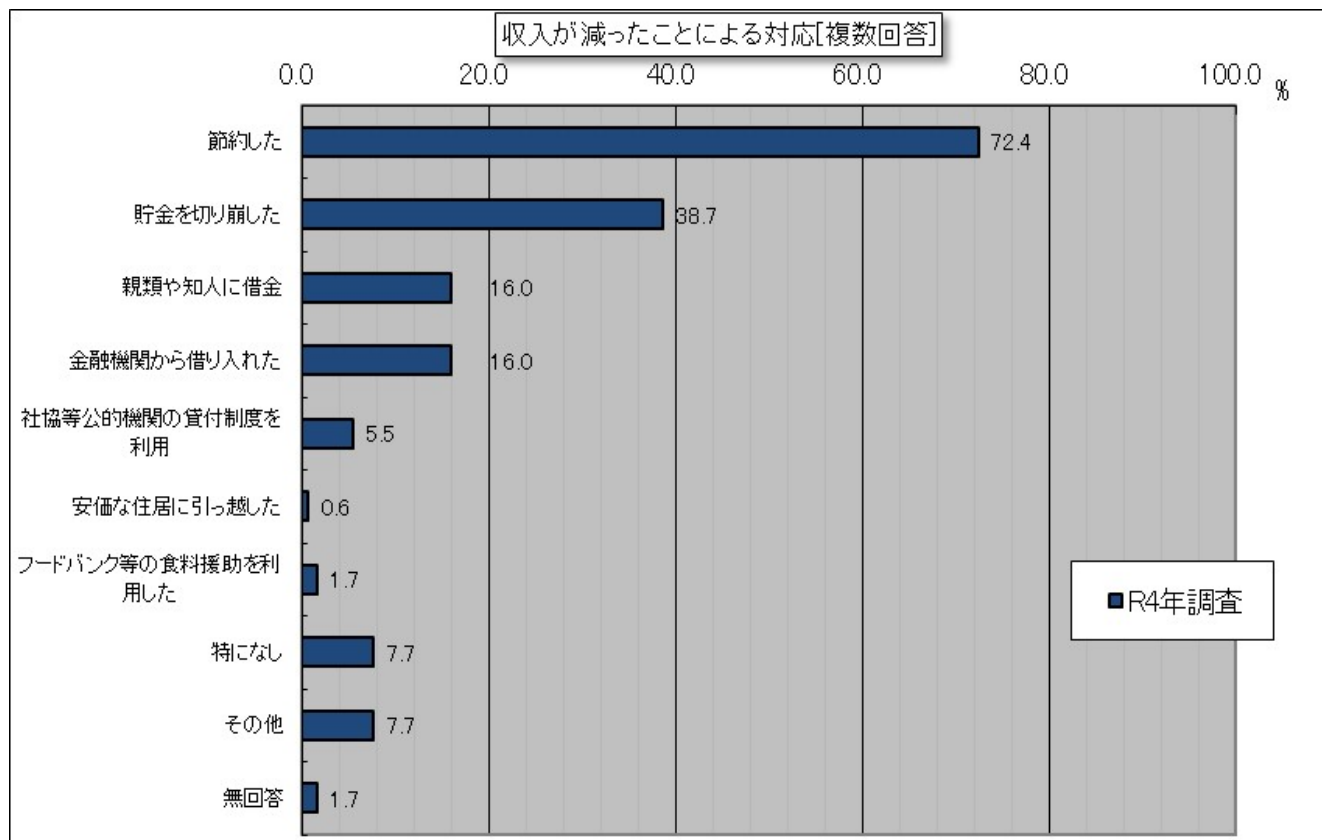


表30 新型コロナウイルス感染症の影響により収入が減ったときの対応[複数回答]  
(単位：世帯、%)

区分	合計	節約した	貯金を切り崩した	親類や知人に借金した	金融機関から借り入れた	社協等公的機関の貸付制度を利用
標本数	181	131	70	29	29	10
構成比 (%)		72.4	38.7	16.0	16.0	5.5
		安価な住居に引っ越した	フードバンク等の食料援助を利用した	特になし	その他	無回答
		1	3	14	14	3
		0.6	1.7	7.7	7.7	1.7

### (9) 現在の生活の状況

現在の生活の状況は、前回調査と同様「大体やっでいける」が36.7%と最も多いものの、次いで「やや苦しい」が27.6%、「苦しい」が24.1%となっており、「生活が苦しい」又は「やや苦しい」と感じている世帯が全体の5割を超えている。

図3 1

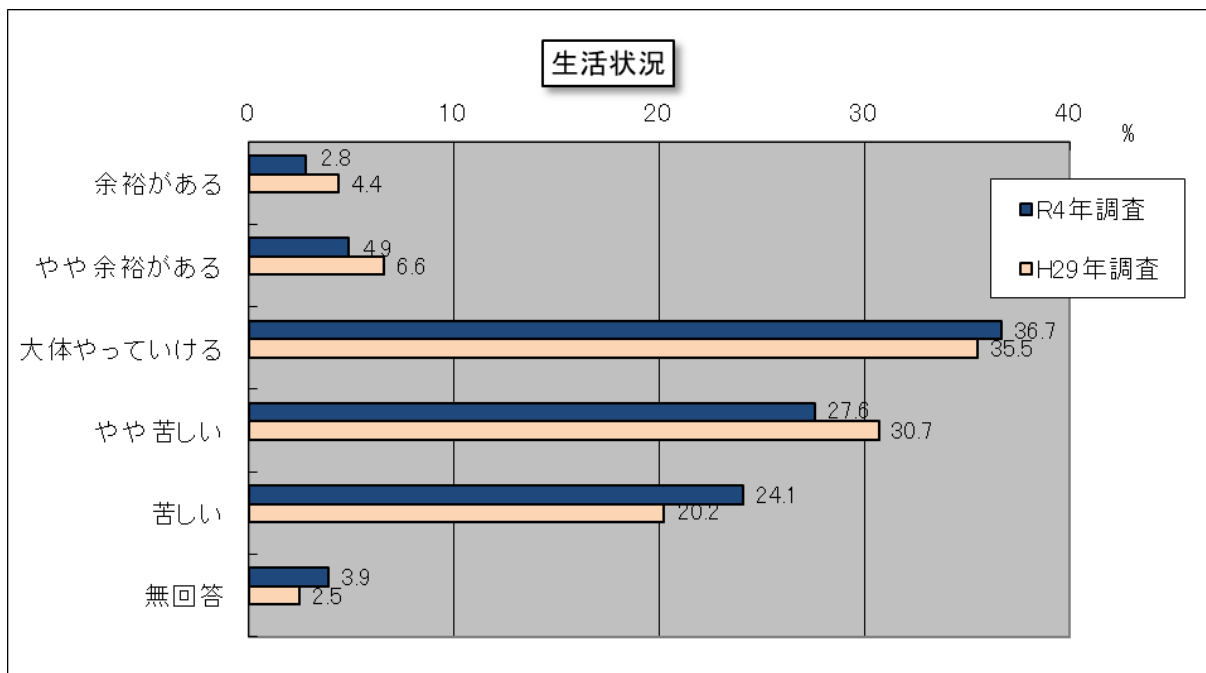


表3 1 生活状況

(単位：世帯、%)

区分	合計	余裕がある	やや余裕がある	大体やっでいける	やや苦しい	苦しい	無回答
標本数	742	21	36	272	205	179	29
構成比(%)	100.0	2.8	4.9	36.7	27.6	24.1	3.9
29年調査	361	4.4	6.6	35.5	30.7	20.2	2.5

## 6 健康状態

### (1) 寡婦の健康状態

寡婦の健康状態は、「おおむね良好」が64.6%、「良好」が19.5%と、合わせると8割を超える人が「良好」であると回答している一方で、「病弱」と回答した人が13.6%となっている。

図32

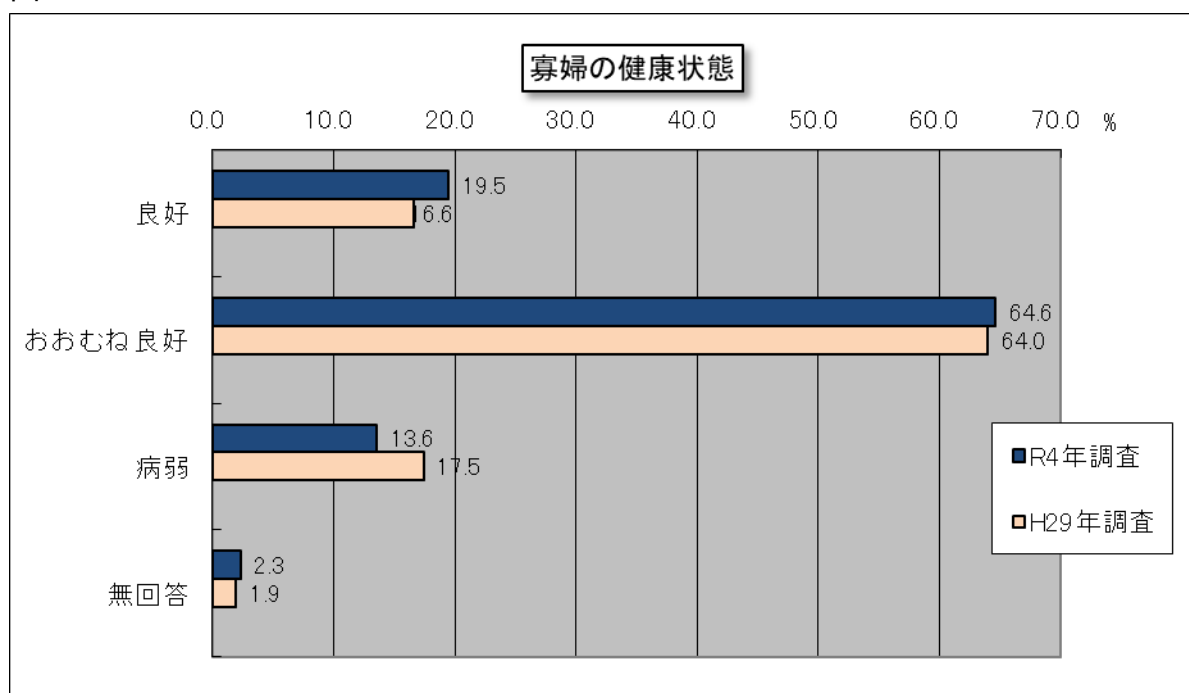


表32 寡婦の健康状態

(単位：世帯、%)

区分	合計	良好	おおむね 良好	病弱	無回答
標本数	742	145	479	101	17
構成比(%)	100.0	19.5	64.6	13.6	2.3
29年調査	361	16.6	64.0	17.5	1.9

## (2) 医療保険の種類

寡婦世帯の医療保険の種類は、「社会保険」が71.2%と最も多く、次いで「国民健康保険」が19.4%となっている。

前回調査と比較すると仕事を持つ人が増えている影響で、「社会保険」が18.6ポイント増加し、「国民健康保険」が18.8ポイントの減少となっている。

図 3 3

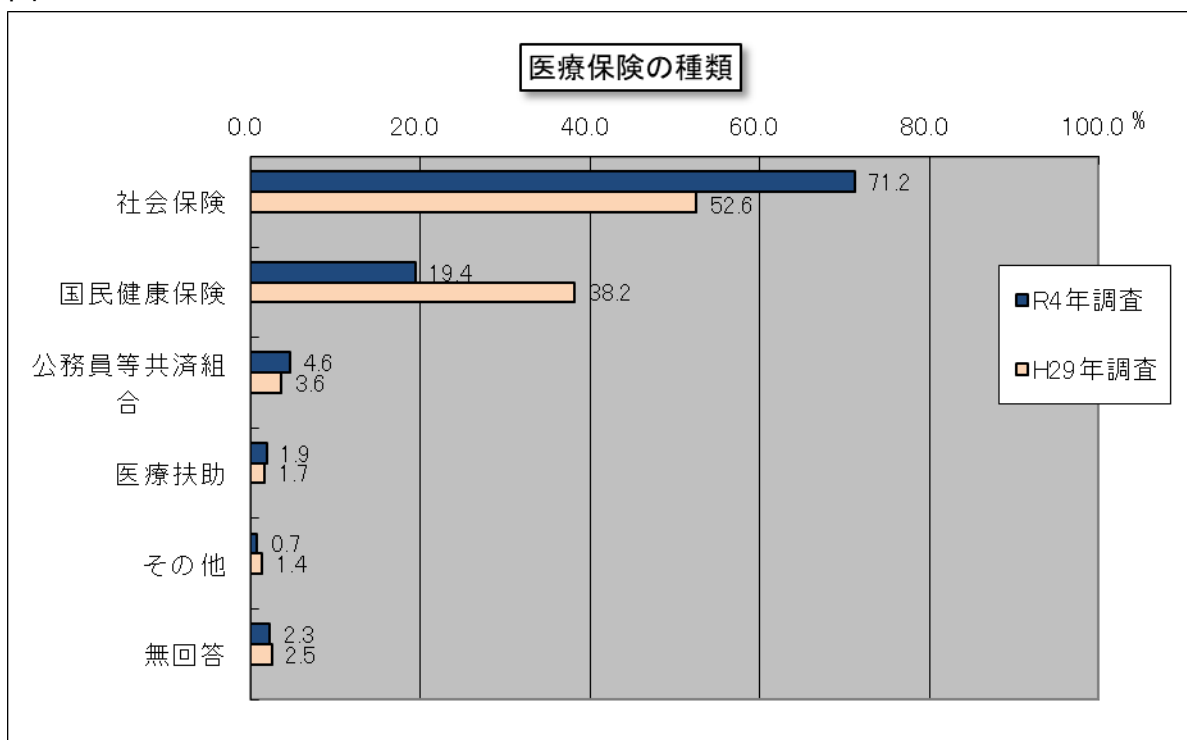


表 3 3 医療保険の種類

(単位：世帯、%)

区分	合計	社会保険	国民健康保険	公務員等共済組合	医療扶助	その他	無回答
標本数	742	528	144	34	14	5	17
構成比(%)	100.0	71.2	19.4	4.6	1.9	0.7	2.3
29年調査	361	52.6	38.2	3.6	1.7	1.4	2.5

### (3) 病気の時の世話

自身が病気の時身の回りの世話をする人は、「子ども」が48.5%と最も多く、次いで「同居の家族」が19.1%、「別居の親族」が13.1%となっている。

図 3 4

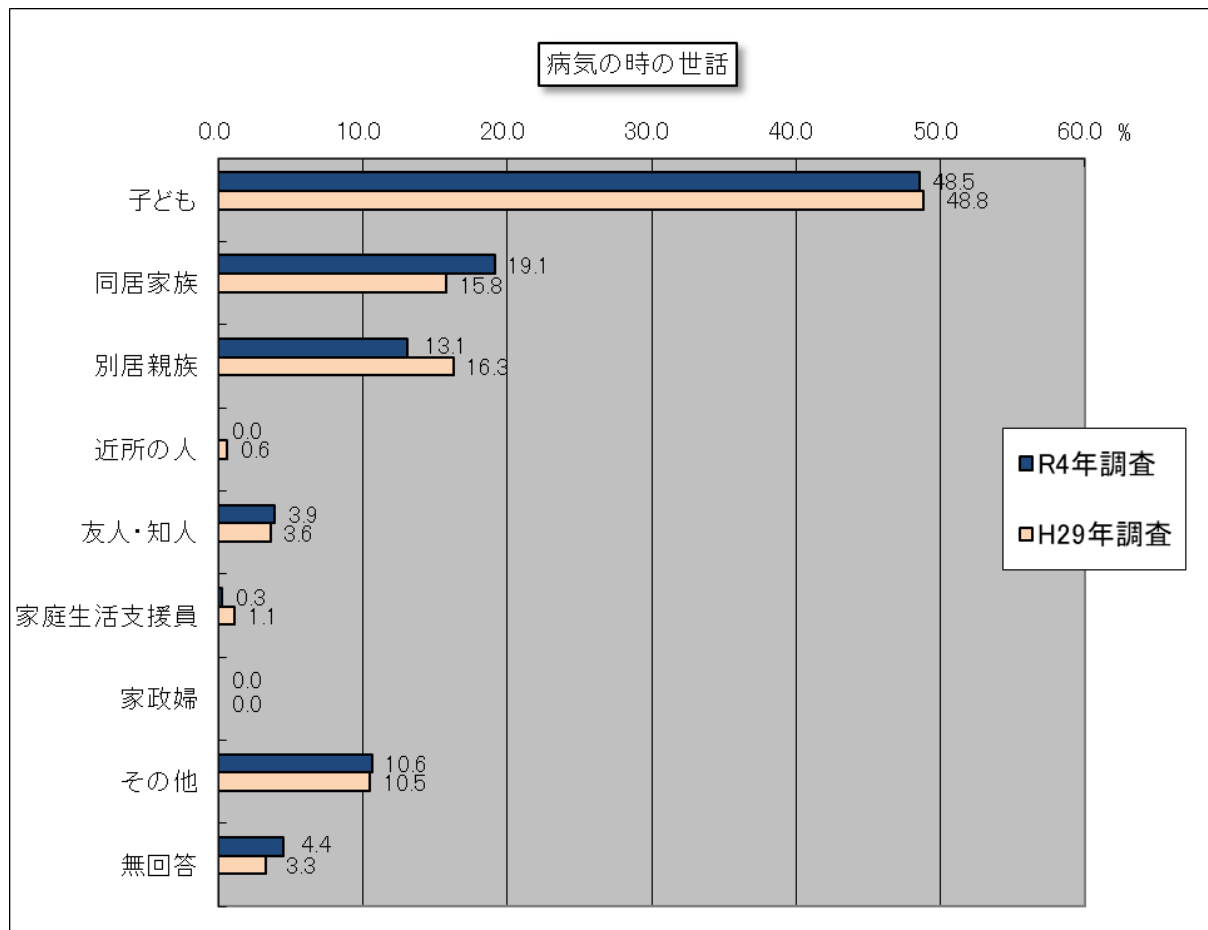


表 3 4 病気の時の世話

(単位：世帯、%)

区分	合計	子ども	同居家族	別居親族	近所の人
標本数	742	360	142	97	0
構成比(%)	100.0	48.5	19.1	13.1	0.0
29年調査	361	48.8	15.8	16.3	0.6

友人・知人	家庭生活支援員	家政婦	その他	無回答
29	2	0	79	33
3.9	0.3	0.0	10.6	4.4
3.6	1.1	0.0	10.5	3.3



## 7 生活上の困りごとや悩み

### (1) 寡婦世帯になった当時困ったこと

寡婦世帯になった当時困ったことは、「生活費」が72.6%と最も多く、次いで「子どもの養育」が35.7%、「仕事」が32.9%、「子どもの教育」が27.1%となっている。

図35

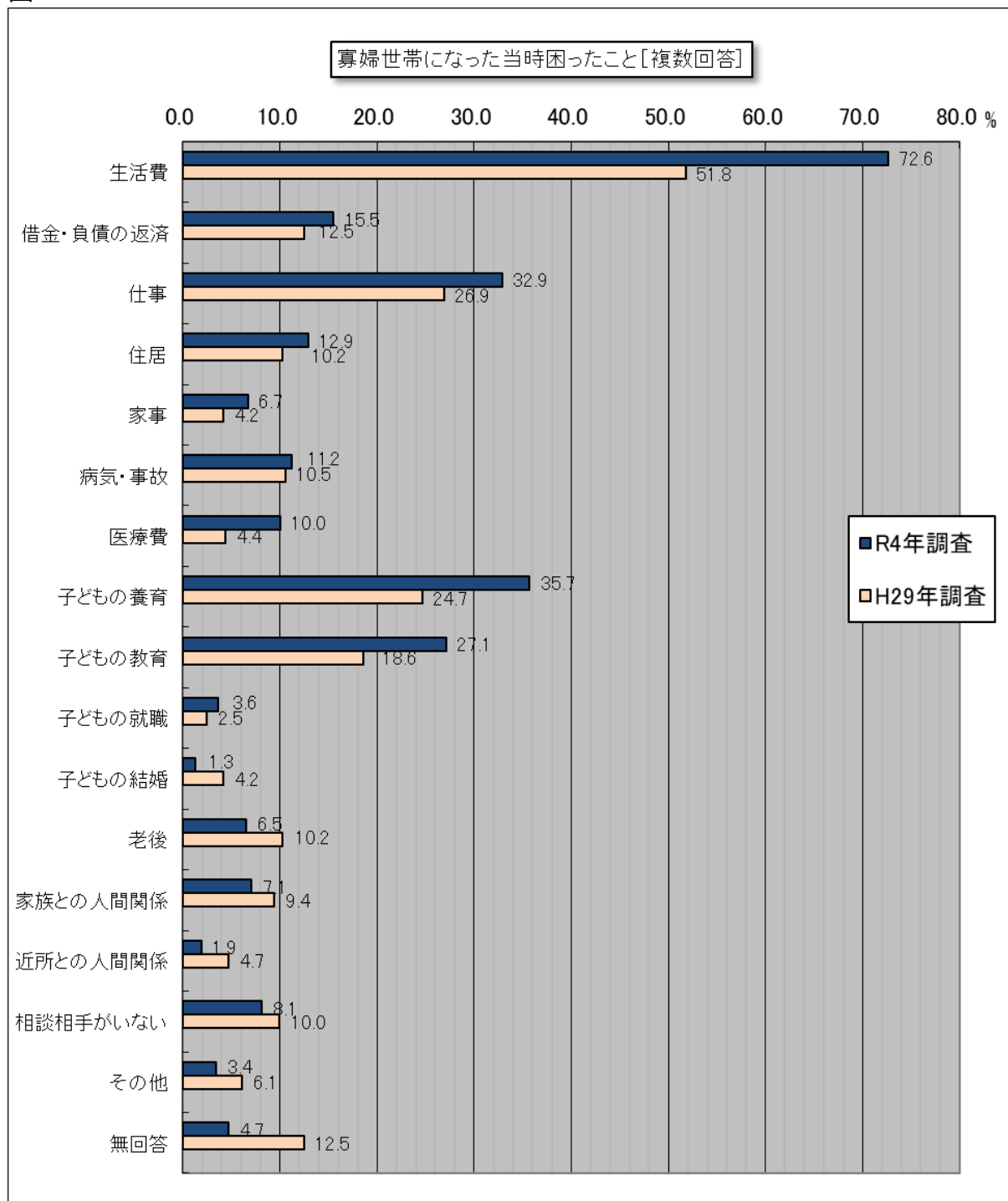


表35 寡婦世帯になった当時困ったこと [複数回答] (単位：世帯、%)

区 分	合計	生活費	借金・負債の返済	仕事	住居	家事	病気・事故	医療費
標本数	742	539	115	244	96	50	83	74
構成比(%)		72.6	15.5	32.9	12.9	6.7	11.2	10.0
29年調査	361	51.8	12.5	26.9	10.2	4.2	10.5	4.4

子どもの養育	子どもの教育	子どもの就職	子どもの結婚	老後	家族との人間関係	近所との人間関係	相談相手がない	その他	無回答
265	201	27	10	48	53	14	60	25	35
35.7	27.1	3.6	1.3	6.5	7.1	1.9	8.1	3.4	4.7
24.7	18.6	2.5	4.2	10.2	9.4	4.7	10.0	6.1	12.5

## (2) 現在の悩み

現在の不安や悩みでは、「老後」のことが55.0%と最も多く、次いで「生活費」が45.0%、「病気・事故」が30.7%、「仕事」が24.0%となっている。

寡婦になった当時と比較すると「老後」が48.5ポイント、「病気・事故」が19.5ポイント増加している。

図36

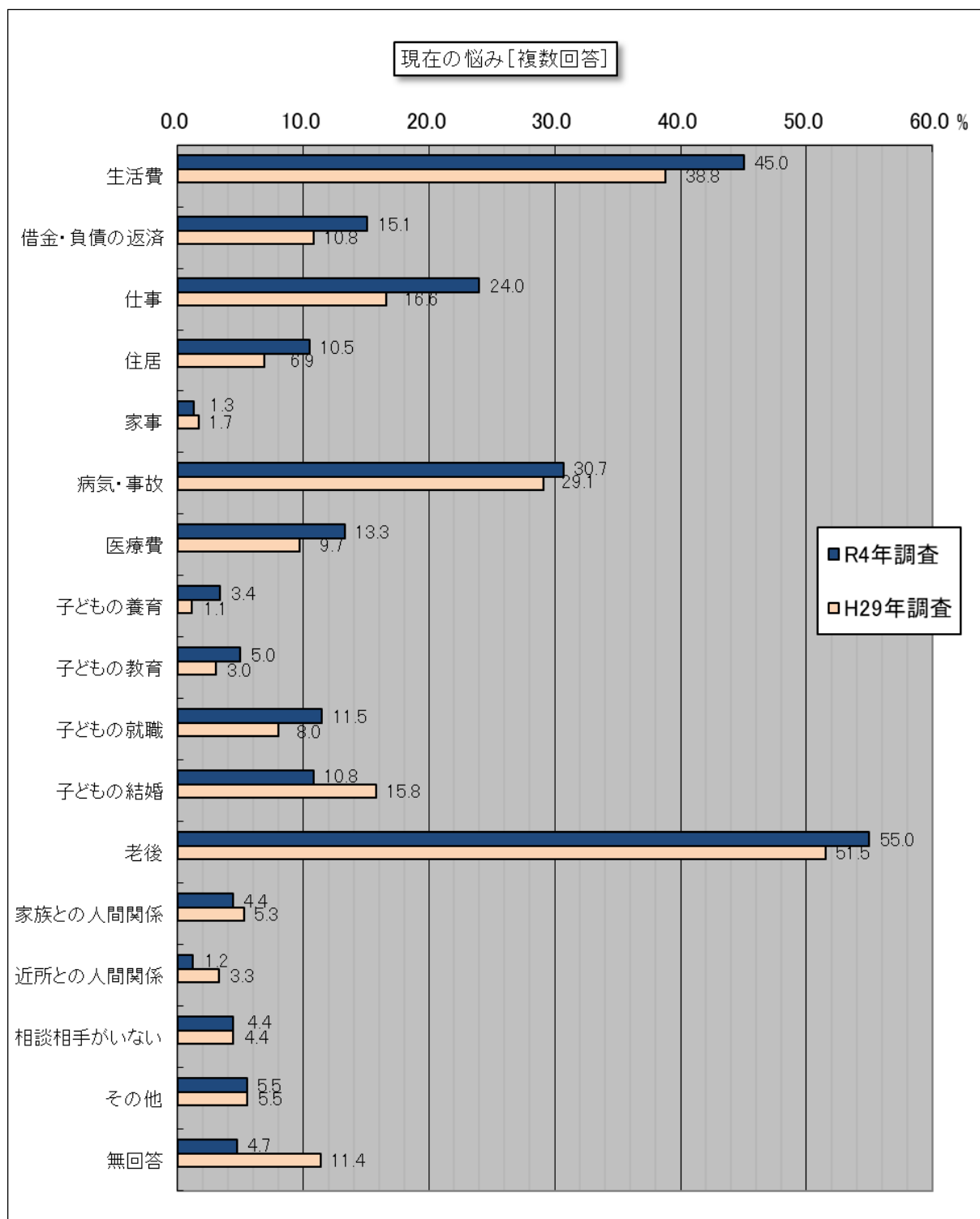


表36 現在の悩み [複数回答]

(単位：世帯、%)

区分	合計	生活費	借金・負債の返済	仕事	住居	家事	病気・事故	医療費
標本数	742	334	112	178	78	10	228	99
構成比(%)		45.0	15.1	24.0	10.5	1.3	30.7	13.3
29年調査	361	38.8	10.8	16.6	6.9	1.7	29.1	9.7

子どもの養育	子どもの教育	子どもの就職	子どもの結婚	老後	家族との人間関係	近所との人間関係	相談相手がない	その他	無回答
25	37	85	80	408	33	9	33	41	35
3.4	5.0	11.5	10.8	55.0	4.4	1.2	4.4	5.5	4.7
1.1	3.0	8.0	15.8	51.5	5.3	3.3	4.4	5.5	11.4

### (3) 相談相手

問題が起きた時の相談相手としては、前回調査と同様「家族」が64.0%と最も多く、次いで「友人・知人」が40.0%、「別居の親族」が27.1%となっている。

一方、「相談相手がない」が9.3%、「相談窓口がわからない」が3.2%となっている。

図 3 7

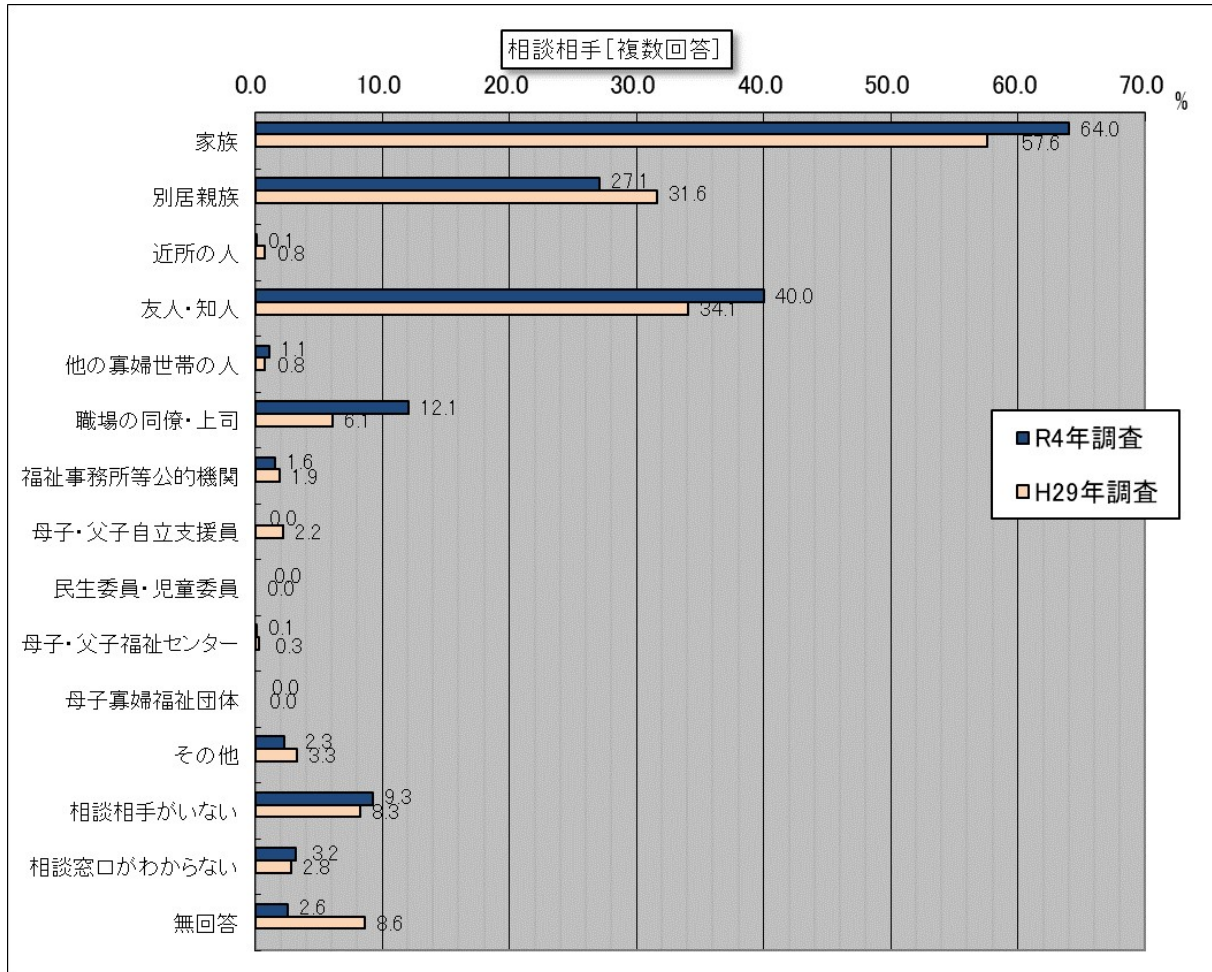


表 3 7 相談相手 [複数回答] (単位:世帯、%)

区分	合計	家族	別居親族	近所の人	友人・知人	他の寡婦世帯の人	職場の同僚・上司	福祉事務所等公的機関
標本数	742	475	201	1	297	8	90	12
構成比 (%)		64.0	27.1	0.1	40.0	1.1	12.1	1.6
29年調査	361	57.6	31.6	0.8	34.1	0.8	6.1	1.9

母子・父子自立支援員	民生委員・児童委員	母子・父子福祉センター	母子寡婦福祉団体	その他	相談相手がない	相談窓口がわからない	無回答
0	0	1	0	17	69	24	19
0.0	0.0	0.1	0.0	2.3	9.3	3.2	2.6
2.2	0.0	0.3	0.0	3.3	8.3	2.8	8.6

## 8 母子寡婦福祉団体への入会

### (1) 入会の状況

母子寡婦福祉団体への入会の状況は、「入会していない」が94.1%で、「入会している」はわずか2.0%にとどまっている。

図 3 8

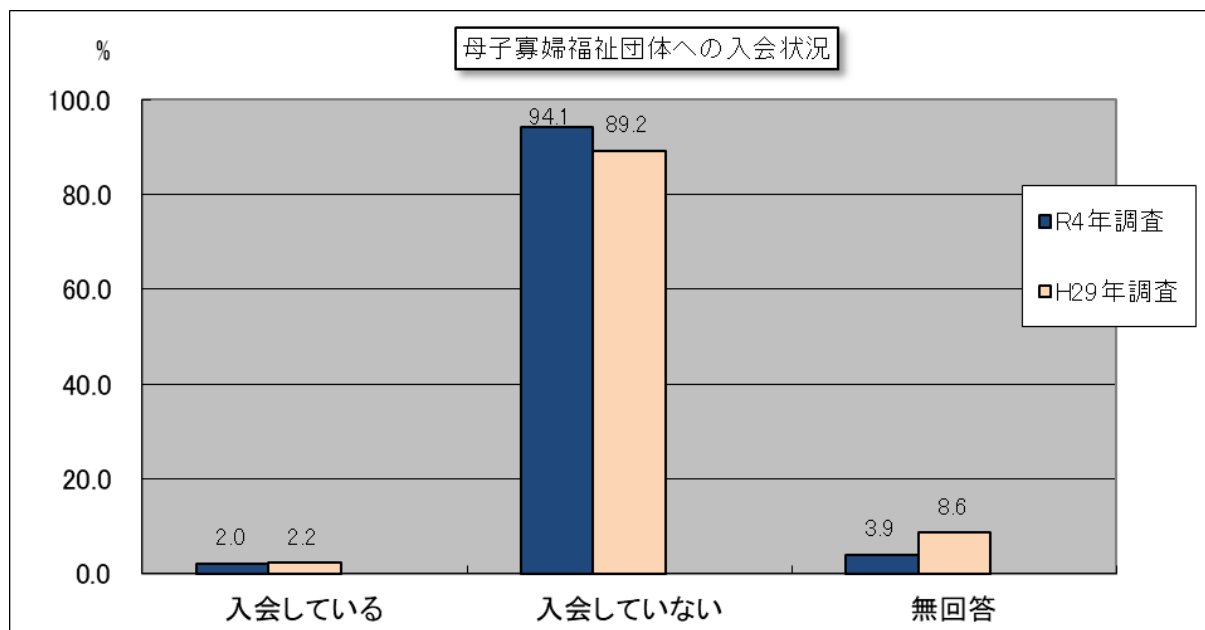


表 3 8 母子寡婦福祉団体への入会状況 (単位：世帯、%)

区 分	合計	入会している	入会していない	無回答
標本数	742	15	698	29
構成比 (%)	100.0	2.0	94.1	3.9
29年調査	361	2.2	89.2	8.6

## (2) 入会していない理由

入会していない理由は、「母子寡婦福祉団体を知らなかった」が77.1%と最も多く、「関心がない」が9.9%、「入会したくない」が7.0%となっている。

図 3 9

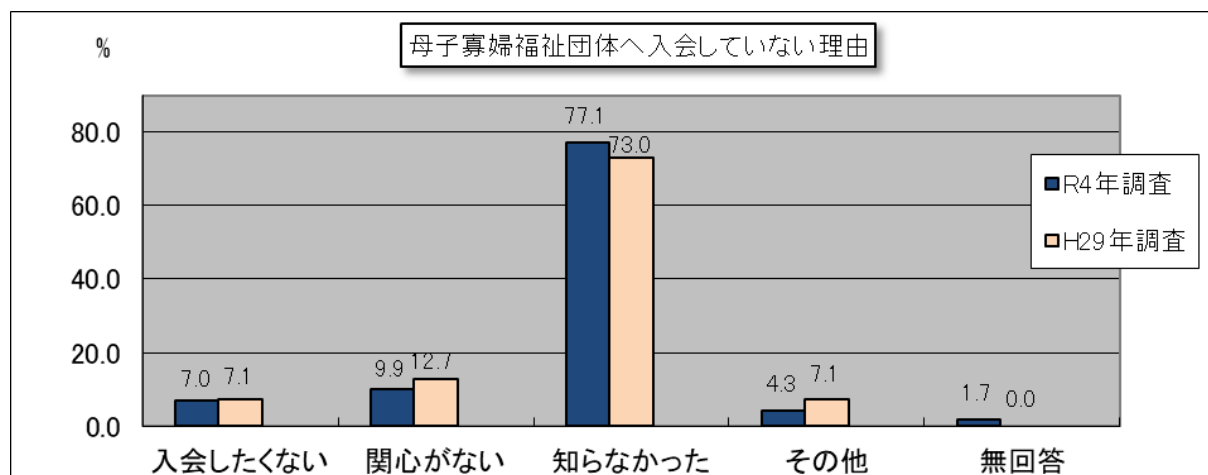


表 3 9 母子寡婦福祉団体へ入会していない理由

(単位：世帯、%)

区分	合計	入会したくない	関心がない	知らなかった	その他	無回答
標本数	698	49	69	538	30	12
構成比 (%)	100.0	7.0	9.9	77.1	4.3	1.7
29年調査	322	7.1	12.7	73.0	7.1	0.0

## (3) 入会の意思

今後の入会の意思については、「入会したくない」が86.8%、「入会したい」が6.3%となっている。

図 4 0

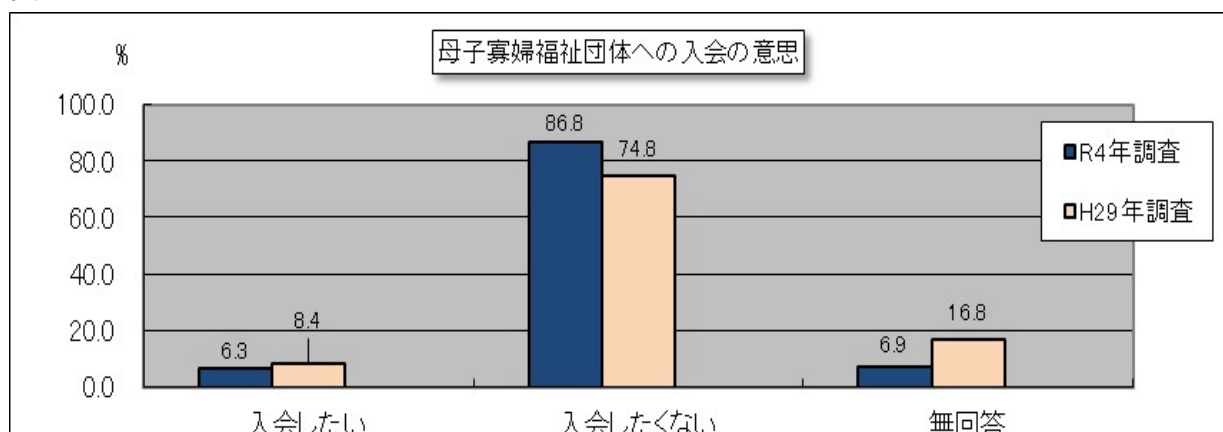


表 4 0 母子寡婦福祉団体への入会の意思

(単位：世帯、%)

区分	合計	入会したい	入会したくない	無回答
標本数	698	44	606	48
構成比 (%)	100.0	6.3	86.8	6.9
29年調査	322	8.4	74.8	16.8

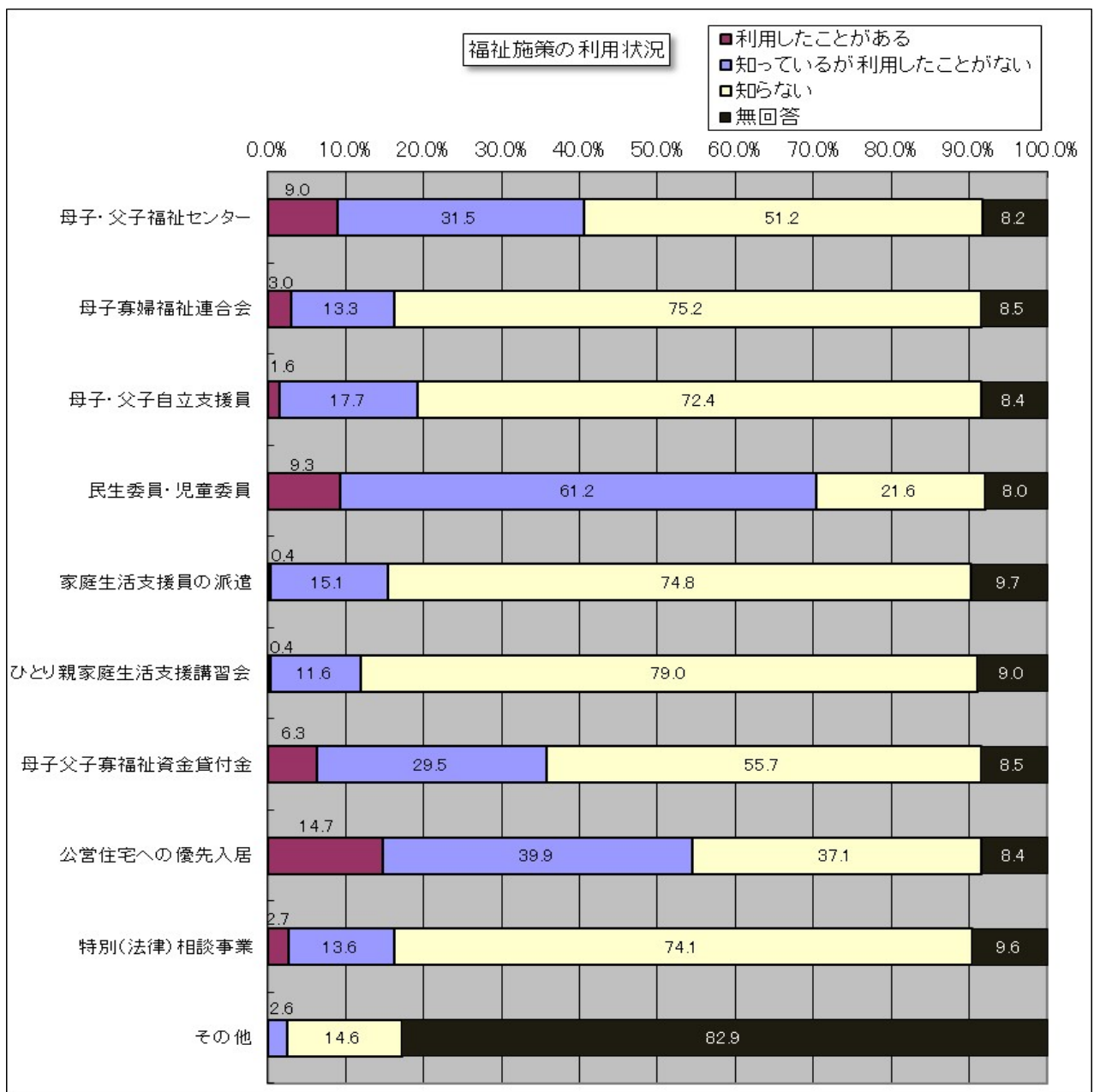
## 9 福祉施策の利用と要望事項

### (1) 福祉施策の利用状況

公的機関や福祉制度の利用状況について、各制度を「利用したことがある」人の割合は、「公営住宅への優先入居」が14.7%と最も多く、次いで「民生委員・児童委員」が9.3%、「母子・父子福祉センター」が9.0%、「母子父子寡婦福祉資金貸付金」が6.3%となっている。

また、「知らない」施策については、「ひとり親家庭生活支援講習会」79.0%、「母子寡婦福祉連合会」75.2%、「家庭生活支援員の派遣」74.8%、「特別（法律）相談事業」74.1%と、母子世帯と同様に寡婦世帯でも施策の認知度が低いことがわかる。

図 4 1





## (2) 福祉施策の利用希望

今後利用したい公的機関や福祉制度については、「特別（法律）相談事業」が4.4%、「公営住宅への優先入居」が3.6%となっている。

図 4 2

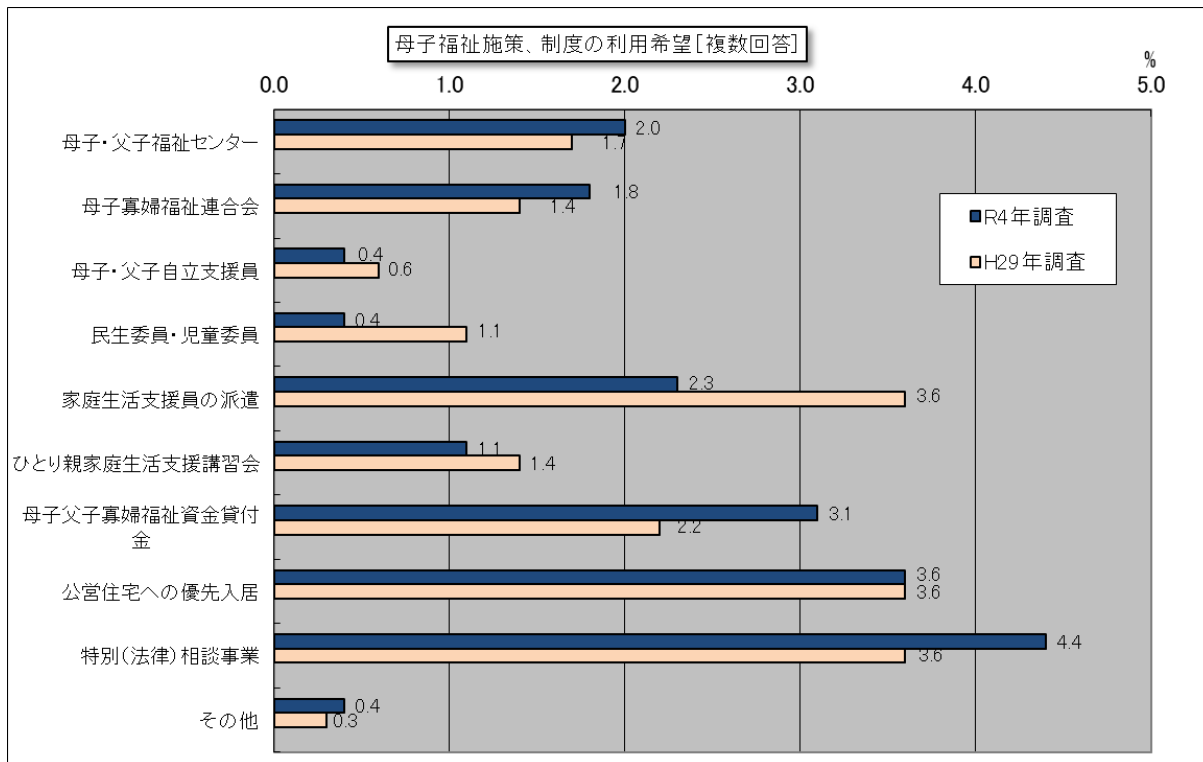


表 4 1 福祉施策の利用希望 [複数回答]

(単位：世帯、%)

区分	合計	母子・父子福祉センター	母子寡婦福祉連合会	母子・父子自立支援員	民生委員・児童委員	家庭生活支援員の派遣
標本数	742	15	13	3	3	17
構成比 (%)		2.0	1.8	0.4	0.4	2.3
29年調査	361	1.7	1.4	0.6	1.1	3.6

区分	標本数	構成比 (%)
ひとり親家庭生活支援講習会	8	1.1
母子父子寡婦福祉資金貸付金	23	3.1
公営住宅への優先入居	27	3.6
特別(法律)相談事業	33	4.4
その他	3	0.4

### (3) 福祉施策を知ったきっかけ

福祉施策をどのようにして知ったかについては、「知らなかった」が33.3%と最も多く、前回調査と比較すると10.5ポイント減少しているが、母子世帯の17.8%と比較すると15.5ポイント高い。

知った方法としては、「市町広報誌から」が23.5%、「市町窓口担当者から」が21.3%、「友人・知人から」が12.4%となっている。

図 4 3

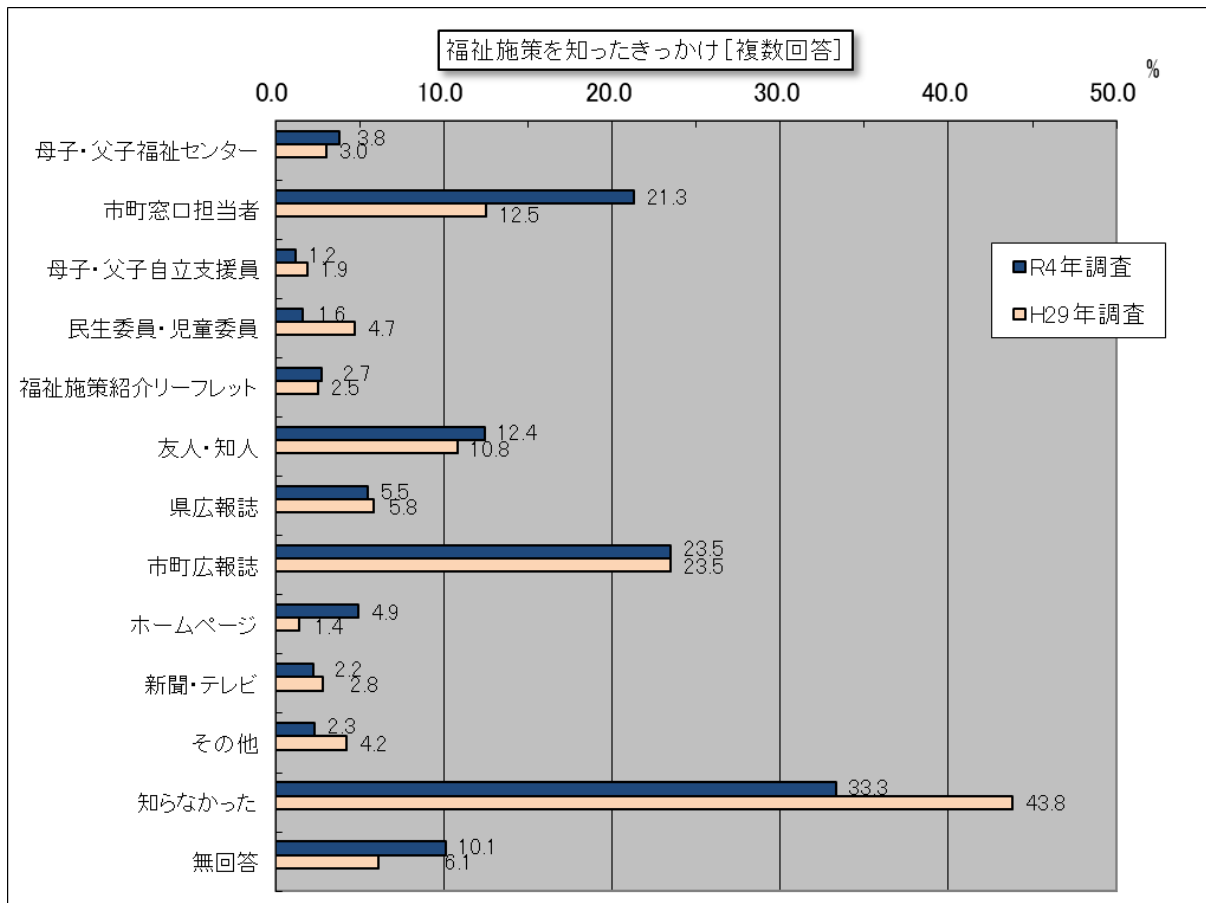


表 4 2 福祉施策を知ったきっかけ [複数回答]

(単位：世帯、%)

区分	合計	母子・父子福祉センター	市町窓口担当者	母子・父子自立支援員	民生委員・児童委員	福祉施策紹介リーフレット	友人・知人
標本数	742	28	158	9	12	20	92
構成比 (%)		3.8	21.3	1.2	1.6	2.7	12.4
29年調査	361	3.0	12.5	1.9	4.7	2.5	10.8

県広報誌	市町広報誌	県・市町ホームページ	新聞・テレビ	その他	知らなかった	無回答
41	174	36	16	17	247	75
5.5	23.5	4.9	2.2	2.3	33.3	10.1
5.8	23.5	1.4	2.8	4.2	43.8	6.1

#### (4) 行政への要望事項

福祉施策に関して国、県、市町へ要望する事項は、「各種年金、手当の充実」が48.5%と最も多く、次いで「医療費助成事業の充実」が34.9%、「養育費確保への支援」が22.5%と続いている。

図44

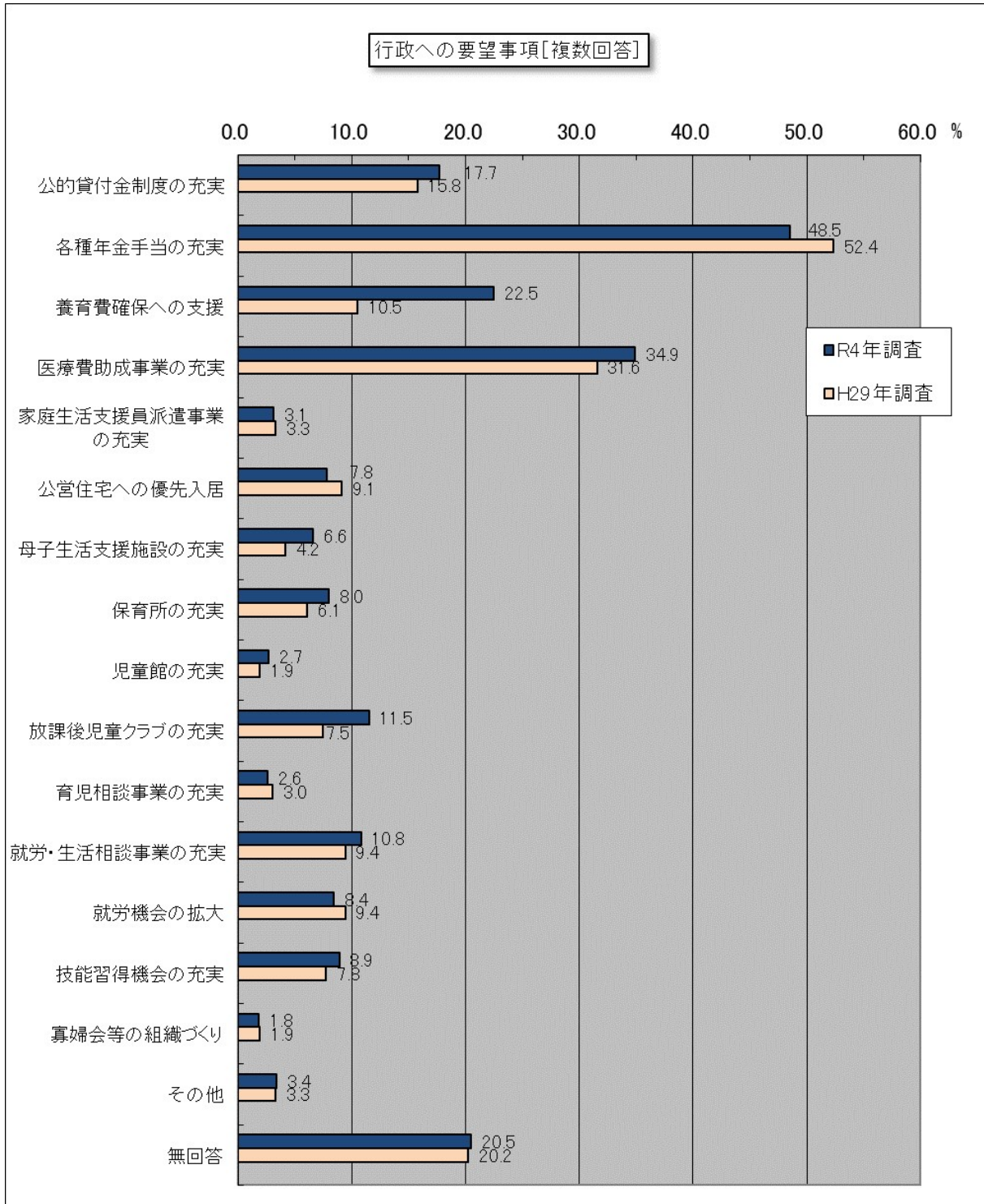


表 4 3 行政への要望事項 [複数回答]

(単位：世帯、%)

区分	合計	公的貸付金 制度の充実	各種年金 手当の充実	養育費確保 への支援	医療費助成 事業の充実	家庭生活支援員 派遣事業の充実
標本数	742	131	360	167	259	23
構成比 (%)	-	17.7	48.5	22.5	34.9	3.1
29年調査	361	15.8	52.4	10.5	31.6	3.3
公営住宅へ の優先入居	母子生活支援 施設の充実	保育所の 充実	児童館の 充実	放課後児童 クラブの充実	育児相談事 業の充実	
58	49	59	20	85	19	
7.8	6.6	8.0	2.7	11.5	2.6	
9.1	4.2	6.1	1.9	7.5	3.0	
就労・生活相談 事業の充実	就労機会の 拡大	技能習得 機会の充実	寡婦会等の 組織づくり	その他	無回答	
80	62	66	13	25	152	
10.8	8.4	8.9	1.8	3.4	20.5	
9.4	9.4	7.8	1.9	3.3	20.2	